

ISSN 2187-9982

宇都宮大学
留学生・国際交流センター一年報
2017年度

2018年8月

宇都宮大学留学生・国際交流センター
Center for International Exchange
Utsunomiya University

目次

センター長挨拶

留学生・国際交流センター長 横田 信三	1
---------------------------	---

留学生・国際交流センター年報 2017年度

I 留学生・国際交流センターの概要

1 沿革・使命	7
2 組織	8
3 年間行事	8

II 留学生・国際交流センターの活動

1 教育・授業	13
1.1 留学生・国際交流センター開講授業	13
(1)初級日本語補習	13
(2)中級日本語短期留学プログラム	13
(3)中級日本語補習	17
1.2 基盤教育および学部・大学院での授業	17
(1)基盤教育センター	17
(2)国際学部（専門科目）	17
(3)全学科目（Learning+1）	17
(4)とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目	17
(5)国際学研究科・博士前期課程	17
(6)国際学研究科・博士後期課程	17
(7)全学科目（Advanced Learning+1）	17
1.3 留学生プログラム	18
(1)日本語・日本文化研修留学生プログラム	18
2 相談体制・生活支援	22
2.1 基本的認識	22
2.2 相談体制	22
2.3 相談実績	23
2.4 支援活動	24
2.5 各種オリエンテーション	24
3 留学生交流支援	27
3.1 栃木県地域留学生交流推進協議会	27
3.2 交流支援事業	28
3.3 小・中・高等学校での国際交流	29
4 留学生の獲得施策	31
4.1 日本留学フェアなどへの参加	31
4.2 外国人学生への進学説明会	36
4.3 交換留学生のための大学院進学説明会	39

4.4	宇都宮大学サテライト・オフィス	39
4.5	平成 29 年度国費（学部進学）留学生への大学進学説明会	42
5	日本人学生の海外派遣留学の推進・支援	44
5.1	海外留学説明会	44
5.2	国際インターンシップ	46
5.3	海外渡航前危機管理オリエンテーション	48
5.4	マレーシア英語研修	49
5.5	海外渡航危機管理サービス	50
6	各種協議会等への参加	52
6.1	平成 29 年度全国国立大学法人留学生センター長 及び留学生課長等合同会議	52
6.2	平成 29 年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会	52
6.3	平成 29 年度第 1 回国立大学法人留学生指導研究協議会	53
6.4	平成 29 年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会 兼第 48 回大阪大学留学生教育・支援協議会	53
6.5	平成 29 年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会	54
Ⅲ	教員個人活動実績	
	横田 信三	57
	湯本 浩之	61
	飯塚 明子	65
Ⅳ	資 料	
1	留学生在籍状況	69
2	国際交流協定校との受入・派遣状況一覧	70
3	留学生・国際交流センターの発行物	73

<センター長挨拶>



留学生・国際交流センター長 横田 信三

宇都宮大学「留学生・国際交流センター年報 2017 年度」が完成しましたので、お届け致します。

今年度は、宇都宮大学の国際交流を推進する、以下の大きな出来事がありました。

大学のグローバル化に対応して、本学の国際交流機能を強化するために、4月から留学生・国際交流センター（以下、「センター」という。）が改組されました。センターの日本語教育部門を切り離し、日本語及び言語学担当の教員が国際学部に移籍致しました。センター教員の減少を補うために、新に教員1名を採用し、また、各学部（地域デザイン科学部、国際学部、教育学部、工学研究科、農学部）から1または2名のセンター協力教員を選出して頂き、これらのメンバーでセンターを運営することになりました。今後、この新体制により、本学の国際交流を進めて行きます。

2017年10月には、タイ王国・カセサート大学農学部内に、本学初の海外サテライト・オフィスが開設されました。このオフィスを中心として、タイのみならず、東南アジアの大学等との学術国際交流の推進、および東南アジアにおける本学同窓会ネットワークを構築し、東南アジアからの留学生の受入等を増加させて行く予定です。私も、2018年3月に当オフィスを訪問し、赴任している担当特命教授と今後の上記の課題について討議しました。

本学が主催する海外英語研修が、オーストラリア・サザンクロス大学（8月27日～9月11日）、及びマレーシア・サラワク大学（2018年2月8日～2月23日）で実施され、それぞれ29名及び20名の学生が参加しました。センターは、準備段階から当研修をサポートし、特に、サラワク大学の研修については、立ち上げから説明会、実施に至るまで強気にサポート致しました。また、センター教員1名が、引率教員として同行し、学生の世話をしました。今後、より多くの海外英語研修プログラムを提供出来るよう努めていくつもりです。

昨年度に引き続き、農学部を中心として、国立研究開発法人科学技術振興機構の日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）に3件採択され、12月にカンボジア王立農業大学、3月にベトナム国家農業大学及びラオス国立大学から、それぞれ学生10名ずつ及び引率教員1名ずつを本学に約10日間受け入れました。これにより、受入学生が日本の農業に関する高度な研修を体験し、日本の文化・歴史・慣習等を学習致しました。また、研修の補助をしてくれた本学学生を中心に、学生間の有意義な交流も実施することが出来ました。今後も、このような留学生のための短期研修プログラムを増やしていく必要があります。

今年度も「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」の全国版に、本学から3名の学生が選出されました。また、「地域人材コース」の「とちぎグローバル人材育成プログラム（上級コース）」に本学の学生2名が選出され、7月19日に、参議院議員、文部科学省、栃木県及び栃木県経済同友会からの来賓をお招きして、本学で壮行会を開催致しました。これらのプログラムを通して、本学のグローバル及びグローバル人材育成が着実に進展しています。

上記以外にも、様々な事業をセンターとして実施致しました。本年報を御覧頂き、当センターの日頃の取組や活動を御理解頂ければ幸甚です。

2018年3月 吉日

留学生・国際交流センター年報
2017年度

I 留学生・国際交流センターの概要



1 沿革・使命

宇都宮大学に在籍する外国人留学生は、正規生（学部学生及び大学院学生）、交換留学生、研究生及び日本語・日本文化研修留学生等を合わせて、平成 29（2017）年 10 月現在では、世界 25 カ国から 244 名の留学生が学んでいる。

留学生・国際交流センター（以下、「センター」という。）は、当初外国人留学生に対し、必要な日本語・日本事情教育及び修学・生活上の指導助言を行うとともに、留学生と地域との交流の推進や海外留学を希望する学生に対する指導助言を行うことを目的として、平成 14（2002）年 4 月に留学生センターとして設置された。

その後、平成 24（2012）年 4 月に留学生・国際交流センターへ改組し、それまでの「日本語教育運営部門」と「留学生指導・相談部門」の 2 部門に、「国際交流推進部門」を新たな部門として設置して 3 部門とし、国際交流のより積極的に具体的な業務展開を推進することとした。さらに、平成 29（2017）年 4 月に部門制を廃止し、新たな体制として各学部等の協力教員を加え、各学部等との連携を強化した。

センターには、センター長、専任教員 2 名（うち 1 名は副センター長）、センター協力教員 6 名、特命教授 1 名、コーディネーター 1 名、また事務体制として学務部留学生・国際交流課が配置され、教育、相談指導、交流事業等の業務に当たっている。主な内容は次のとおりである。

(1) 日本語の授業

センターでは、研究・交流の場や日常生活の中で円滑な意思疎通が行えるように、留学生にさまざまな学習の機会を用意している。日本語の授業は、初級から上級までをカバーし、日本語のコミュニケーション技能と、日本語で行われる学術・研究活動での表現力の向上を目指すものである。現在、全留学生を対象としたカリキュラムとともに、学部留学生や国費留学生（研究留学生、教員研修留学生、日本語・日本文化研修留学生）を対象とした授業を行っている。

(2) 相談指導

相談指導担当の教員が修学上や生活の中で生じた問題について留学生と話し合い、適切な助言を与えている。また、留学生、チューター及び指導教員の間で連携をとることにより、必要なときに適切な支援ができるシステムづくりを目指している。

(3) 交流事業

センターは、留学生と地域社会との充実した交流プログラムづくりに努めている。また、地元の国際交流団体やボランティアグループと連携することにより、交流の機会を少しでも増やそうと、地域住民に呼びかけてホームステイ体験事業を行っている。同時に多彩な文化交流活動を通じて、留学生と日本人学生の相互理解を深め異なる文化をお互いに尊敬する態度を養っている。

(4) 留学生・国際交流課

留学生・国際交流課は、学生及び教員の国際交流に関する様々な業務を行うほか、「センター」の事務も担当し、留学生が安心して勉学に専念できるよう、以下のような修学上・生活上の支援業務を行っている。

- ・奨学金に関すること
- ・国際交流会館の入退去に関すること
- ・海外留学に関すること
- ・留学生のチューターに関すること
- ・地域交流事業についての情報提供に関すること

2 組織

(平成 30 年 3 月 1 日)

留学生・国際交流センター教員		
センター長（農学部教授併任）	横 田 信 三	
教授（副センター長）	湯 本 浩 之	
助 教	飯 塚 明 子	
協 力 教 員	地域デザイン科学部 准教授	藤 倉 修 一
	地域デザイン科学部 助教	松 本 美 紀
	国際学部 教授	マリーケオマノータム
	教育学部 教授	茅 野 理 子
	工学研究科 教授	長谷川 光 司
	農学部 教授	安 藤 益 夫
サテライト・オフィス（タイ・カセサート大学内）		
特 命 教 授	後 藤 章	

学務部 留学生・国際交流課	
課 長	阿 部 好 子
国際交流企画係長	上 野 量 才
留 学 生 係 長	松 本 晴 朗
係 員	館 智 恵 子
事 務 補 佐 員	野 澤 慶 子
事 務 補 佐 員	林 田 智 美
派 遣 職 員	山 本 由 紀 恵
事 務 補 佐 員	阿 部 ひかり
事 務 補 佐 員	田 中 由 起 子
国際インターンシップ事務室	
コ ー デ ィ ネ ー タ ー	松 井 貞
事 務 補 佐 員	林 田 智 美

<非常勤講師>

〔日本語教育〕 石 川 美 和 八重島 炎 鈴木 寛 子 野 口 芙 美
 〔Learning+1〕 綿 貫 雅 一 兒 島 建 彦 青 木 健 太

3 年間行事

<4月>

- 5日（水） 4月来日留学生（学部留学生を除く）オリエンテーション
- 5日（水） 保護者向け留学情報説明会
- 7日（金） 学部新入生向け留学情報説明会
- 11日（火） グローバル教育に関する説明会
- 12日（水） 学部1年生及び編入留学生オリエンテーション
- 13日（木） 4月来日留学生生活上の留意事項説明会／4月来日留学生歓迎会
- 14日（金） 海外留学説明会
- 18日（火） 海外英語研修説明会
- 19日（水） 平成28年度春期国際インターンシップ報告会及び平成29年度夏期説明会
- 21日（金） 平成29年度留学生支援事業に関する担当者会議（主催：栃木県国際交流協会）

<5月>

- 13日（土）～14日（日） ホームステイウィークエンド in 那珂川2017（春：田植え）
 （主催：那珂川町教育委員会、那珂川国際交流事業企画運営委員会）
- 15日（月）～17日（木） アメリカ・パデュー大学来学
- 27日（土） 平成29年度新規外国人留学生のためのガイダンス及び懇親パーティー
 （主催：栃木県国際交流協会、栃木県地域留学生交流推進協議会）

<6月>

- 1日（木） 平成29年度第1回栃木労働局外国人留学生就職支援協議会
 （主催：栃木労働局外国人留学生就職支援協議会）
- 5日（月） 平成29年度「大学国際交流・海外研修管理者向け危機管理セミナー」

(共催：日本アイラック・AIU損害保険)

- 8日(木) アメリカ・ヴィンセンス大学担当者来学
- 13日(火) 平成29年度交換留学説明会及び留学体験報告会
- 14日(水) アメリカ・トライン大学事務担当者来学
- 15日(木) 栃木県地域留学生交流推進協議会総会(主催：栃木県地域留学生交流推進協議会)
- 15日(木) 平成29年度留学生との交流会／感謝状贈呈式(主催：栃木県地域留学生交流推進協議会)
- 27日(火) 国際学部第3回FD研究会「もし学生が海外で事件事故に巻き込まれたら？」

<7月>

- 7日(金) 第29回国際交流(七夕)の集い(主催：栃木経済交友会)
- 9日(日) 平成29年度外国人学生のための進学説明会(東京会場)
- 14日(金) 国際交流会館退去説明会
- 15日(土) 平成29年度外国人学生のための進学説明会(大阪会場)
- 18日(火) 平成29年度第1回海外留学渡航前危機管理オリエンテーション
- 24日(月) 平成29年度交換留学生向け大学院進学説明会
- 24日(月) 中級日本語短期留学プログラム修了発表会

<8月>

- 1日(火) 「日本語・日本文化研修留学生修了レポート」発表会
- 27日(日)～9月11日(月) オーストラリア・サザンクロス大学海外語学研修
- 24日(木)～9月1日(金) 国際インターンシップ先訪問・開拓(ベトナム、スリランカ)

<9月>

- 29日(金) 10月来日留学生オリエンテーション

<10月>

- 3日(火) 国際交流会館入居説明会
- 3日(火) 10月来日留学生生活上の留意事項説明会
- 3日(火) 10月来日留学生歓迎会
- 7日(土)～8日(日) 日本留学フェア(インドネシア)
- 7日(土)～8日(日) ホームステイウィークエンド in 那珂川2017(秋：稲刈り)
(主催：那珂川町教育委員会、那珂川国際交流事業企画運営委員会)
- 10日(火) 交換留学フェア
- 21日(土)～22日(日) 平成29年度県内外国人留学生ホームステイ・プログラム
(主催：栃木県地域留学生交流推進協議会)
- 25日(水) 平成29年度国費(学部進学)留学生への大学進学説明会(主催：東京外国語大学)
- 27日(金) 東南アジア青年の船一行来学
- 30日(月) 平成29年度夏期国際インターンシップ報告会及び春期説明会
- 31日(火) グローバル人材採用セミナー
(主催：栃木県、栃木県国際交流協会、栃木県労働局外国人留学生就職支援協議会)

<11月>

- 2日（木） 平成29年度国費（学部進学）留学生への大学進学説明会（主催：大阪大学）
- 9日（木） 平成29年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会（主催：金沢大学）
- 10日（金） 平成29年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議（主催：富山大学）
- 28日（火） 留学生のための就活スタートセミナー（主催：栃木県労働局外国人留学生就職支援協議会）

<12月>

- 1日（金） 平成29年度留学生指導教員及び事務担当者研修会（主催：栃木県地域留学生交流推進協議会）
- 12日（火） 外国人留学生と地域交流団体等との交流会

<1月>

- 12日（金） 国際交流会館退去説明会
- 16日（火） 平成29年度第2回海外渡航前危機管理オリエンテーション
- 24日（水） 平成29年度後期中級日本語短期プログラム修了発表会

<2月>

- 8日（木）～23日（金） マレーシア・サラワク大学海外語学研修
- 22日（木） 栃木県地域留学生交流推進協議会運営委員会（主催：栃木県地域留学生交流推進協議会）
- 22日（木） 「教育機関向け海外安全対策セミナー」（主催：外務省）

<3月>

- 16日（金） 外国人留学生合同企業説明会&交流会（主催：栃木労働局外国人留学生就職支援協議会）
- 22日（木） 平成29年度第2回栃木労働局外国人留学生就職支援協議会
（主催：栃木県労働局外国人留学生就職支援協議会）

（留学生・国際交流課）

Ⅱ 留学生・国際交流センターの活動



1 教育・授業

1.1 留学生・国際交流センター開講授業

(1) 初級日本語補習

平成 29 年度前期と後期に、「初級日本語補習 I」および「初級日本語補習 II」が開講された。

「初級日本語補習 I」は、日本社会での日常生活や大学での勉学・研究生活に必要な、基本的日本語コミュニケーション能力を身につけさせることを目的に構成された日本語授業である。メイン教材として『みんなの日本語 初級 I』（スリーエーネットワーク）を使用し、基本的な文法や語彙、表現を学びながら、聞くこと・話すこと・読むこと・書くことを総合的に習得できるようになっている。ひらがな、カタカナについては、未習者を対象に各学期の初めに集中学習を行なうことで対応した。

「初級日本語補習 II」は、初級前半レベルの日本語既習者を対象に既習事項の復習に加え、初級後半レベルに上達することを目指して文法、読解、作文などの能力の向上を図って行われている。メイン教材に『みんなの日本語 初級 II』（スリーエーネットワーク）を使用した。

(威 記)

(2) 中級日本語短期留学プログラム

留学生・国際交流センターでは、平成 20 年 4 月から、「宇都宮大学中級日本語短期留学プログラム」を実施してきている。本プログラムは、本学と交流協定を締結している海外の大学から派遣された留学生を対象とした、6 ヶ月～12 ヶ月間の留学プログラムで、このプログラムを通して日本語能力を上げるとともに、日本社会および日本文化について理解を深めることを目的にしている。

海外の交流協定締結校から本学に派遣された外国人留学生は、日本語能力が非常に限られており、その中には、中級日本語の授業を受講できるレベル（日本語検定試験 3 級くらいのレベルで、日常生活面においては、簡単な買い物ができ、自分で電車に乗れるくらいのレベル）の学生が多かった。これらの留学生は、学部で提供されている普通の日本人向けの授業を受講することは非常に困難である。これらの留学生のニーズに応えるため、留学生センターでは、検討を重ねた結果、平成 20 年度から、交流協定を結んでいる海外の大学からの留学生を対象とする「中級日本語短期プログラム」を実施することになった。平成 29 年度では、32 名の留学生が本プログラムを修了した。

本プログラムの目的や平成 29 年度の実施要領等を以下に示す。

1) 目的

宇都宮大学（以下、本学という。）短期留学プログラムは、本学と交流協定を締結している海外の大学からの留学生を対象として受け入れ、本学における日本語教育、日本文化等の授業科目を提供するための教育プログラムである。この短期留学プログラムは、日本および日本文化に対するより良き理解者としてだけでなく国際社会で活躍できる人材を育成することを目的に、6 ヶ月～12 ヶ月にわたり、本学での日本語教育、日本文化体験および本学の学生・教職員との交流等を実施するものであり、以下の通り要領を定める。

2) 対象者

本学短期留学プログラムに出願できる者は、以下の 3 つの要件をすべて満たしたものとする。なお、留学生・国際交流センター長が特別許可する者については、その限りではない。

- ①本学と学生交流協定を結んでいる外国の大学の正規課程に在籍している学部学生又は大学院学生。
- ②渡日前に 300 時間程度の日本語教育を受けているもの、あるいは日本語能力試験 3 級に合格しているもの。

3) 受入れ期間

原則として、10月からの1年間、又は4月からの半年間とする。

4) 受入れ予定人数

10名～15名程度とする。

5) 修了要件

- ①一学期において、「短期留学プログラム」のコア日本語科目の中から3科目以上を履修すること。但し、学生の日本語能力によって、共通教育、または国際学部で開講する日本語科目を用いて替えることが出来る。
- ②一年間のコースでは、年間10科目以上を履修し、且つ単位を取得すること。また、半年間のコースでは、5科目以上を履修し、且つ単位を取得すること。
- ③自主研究レポートを提出すること。

6) 自主研究：「短期留学生特別演習 A.B.」

留学生は担当教員と相談した上で研究テーマを決める。更に、担当教員の指導のもと、研究成果をまとめたレポートを修了時に提出する。

7) 成績評価・単位認定

この教育プログラムの受講生に対して、履修した授業科目、成績評価および単位数を記載した成績書を発行する（ただし、留学センター開講科目については留学生センター長名で発行する）。本学の発行した成績書に基づき、留学生を派遣した大学において単位認定が行われる。但し、学位取得に関する単位として認定するか否かの判断は留学生を派遣した大学に委ねる。

8) 平成 29 年度コア日本語科目

	科目の種類	科目名	単位	担当教員
前期	コア日本語科目	中級読解 A	1	石川
		中級作文 A	1	八重島
		中級文法 A	1	八重島
		中級聴解 A	1	戚
		漢字と漢字文化	1	戚
		中級総合 I	1	野口
	演習科目（必修）	短期留学生特別演習 A	2	戚
後期	コア日本語科目	中級読解 B	1	八重島
		中級文法 B	1	八重島
		中級漢字	1	石川
		中級作文 B	1	石川
		中級聴解 B	1	戚
		中級会話 B	1	戚
		中級総合 II	1	野口
	演習科目（必修）	短期留学生特別演習 B	2	戚

9) 平成 29 年度「中級日本語短期留学プログラム」前期修了発表会

①日 時：7月24日(月) 16:20～19:20

②会 場：5号館C棟4階国際交流学習室

③プログラム(敬称略)：

1) 開会の辞：留学生・国際交流センター長 横田信三先生

2) 発表題目

a. 愛を伝える表現に関する比較研究：英語、スペイン語、チェコ語、スロバキア語と日本語を中心に

…………… ペトラ・ラソフスカ (国際学部 交換留学生)

b. 妖怪文化にみる日本人の「心」

…………… 趙 芳 (国際学部 交換留学生)

c. お菓子文化：日本とカンボジアの相違点について …………… ヘン シータイ (国際学部 交換留学生)

d. 日本語における「外国人」について …………… チャエム ソソレン (国際学部 交換留学生)

e. アベノミクスに関する一考察：アベノミクスか？安倍のミスか？

…………… リム ソンファン (国際学部 交換留学生)

f. 茶道と禅に関する一考察…………… シモナ・ストルジンコヴァー (国際学部 交換留学生)

g. 茶道における美しさと心構え …………… コン キムホン (国際学部 交換留学生)

h. お茶を飲む日本の習慣 …………… 陳 逸文 (国際学部 交換留学生)

i. 和食と日本文化…………… 頼 品言 (国際学部 交換留学生)

j. パン食の日本への渡来とその後…………… 郭 俊蔚 (国際学部 交換留学生)

k. ラーメンからインスタントラーメンへ …………… ナンナパット (国際学部 交換留学生)

l. 日本の小学校の学校給食について…………… 李 芹 (国際学部 交換留学生)

m. 日本の温泉について …………… 王 津朝 (工学研究科 交換留学生)

n. 季語に見る日本人の自然観 …………… 王 茜 (国際学部 交換留学生)

o. 巡礼者の心理から見た四国遍路道：「歩く、歩く、歩く 四国遍路道」という映画を中心に

…………… 徐 笑笑 (国際学部 交換留学生)

p. 雲に関する一考察 …………… キム ナギョン (農学部 交換留学生)

q. 政治に対する日本の若者の関心度 …………… フェリックス・ゾンマー (国際学部 交換留学生)

3) 質疑応答

4) 総評：「中級日本語短期留学プログラム」コーディネーター 戚 傑



開会の辞：横田センター長



修了発表風景



発表会終了後の記念撮影

10) 平成 29 年度「中級日本語短期留学プログラム」後期修了発表会

①日 時：1月24日（水）16:30～19:10

②会 場：5号館C棟4階国際交流学習室

③プログラム（敬称略）：

1) 開会の辞：留学生・国際交流センター長 横田信三先生

2) 発表題目

a. 観光資源の保護と観光客誘致：姫路城、熊本城、広島原爆ドームと平和記念公園を例に

…………… イ ドンウ（国際学部 交換留学生）

b. 日本におけるジェンダー問題 ……………

…………… 朱 敬慈（国際学部 交換留学生）

c. 宇都宮市の観光産業に関する一考察 …………… 李 總君（国際学部 交換留学生）

d. 男性アイドル・ジャニーズグループについて …………… 汪 盛璇（国際学部 交換留学生）

e. 無印良品のブランド戦略 …………… イ ジウォン（国際学部 交換留学生）

f. 布沢区でのボランティア経験を通して見る日本の少子高齢化問題

…………… グエン・ティ フェ（国際学部 交換留学生）

g. 夢や目標の有無と生活満足度との関係 …………… グォン・インギョン（国際学部 交換留学生）

h. ご当地キャラクターを使った日本各地の広報活動とその効果 オ ジュヨン（国際学部 交換留学生）

i. アニマルホーダーについて…………… カン ウング（国際学部 交換留学生）

j. 日本の食品ロス：現状と対策

…………… グエン・ティトラ ミー（国際学部 交換留学生）

k. 入れ墨に対する日本人の意識 …………… 陳 千湖（国際学部 交換留学生）

l. 人命の尊厳と臓器売買…………… 梁 明秀（国際学部 交換留学生）

m. 宇都宮大学生の職業意識調査と韓国の大学生との比較 …… キム ハップム（国際学部 交換留学生）

n. 明王朝時代における日本と寧波の貿易交流 …………… 裘 健平（国際学部 交換留学生）

o. 日本のラーメン文化について …………… 鐘 璨（国際学部 交換留学生）

3) 質疑応答

4) 総評：「中級日本語短期留学プログラム」コーディネーター 戚 傑



開会の辞：横田センター長



修了発表風景



修了発表会場風景

（戚 記）



(3) 中級日本語補習

中級日本語補習は、初級レベルを終了した学生を対象に、文法・対話・読解・作文の4つの基本的な技能が総合的に学べるように構成された日本語科目群で、中級レベルの日本語能力を養成することを目的としている。

本学で学ぶ留学生の数が年々増加しており、大学院生と学科・学部研究生は留学生の約半分を占めている。大学院生と学科・学部研究生の中に、日本語授業の単位修得を目的としていないが、日本語を勉強したい学生も大勢いる。中級日本語補習は、宇都宮大学に在籍するこれらの大学院外国人留学生と学科・学部研究生(科目等履修生を除く)を対象に開講する無単位の日本語教育科目である。

平成29年度前期と後期に、「中級日本語補習:総合A」、「中級日本語補習:聴解と会話A」、「中級日本語補習:読解と作文A」、「中級日本語補習:学術日本語Ⅰ」と「中級日本語補習:学術日本語Ⅱ」の5コマの授業が開講された。

(威 記)

1.2 基盤教育および学部・大学院での授業

留学生・国際交流センターの教員は、基盤教育センターをはじめ、国際学部や国際学研究科などの授業科目を担当している。平成29年度にセンター所属の専任教員および非常勤講師が開講した授業科目は以下の通りである。

(1) 基盤教育センター

学期	科 目 名	担当教員	備 考
前期	ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会の中の私たち」	湯本	
後期	ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	湯本	

(2) 国際学部（専門科目）

学期	科 目 名	担当教員	備 考
前期	グローバル教育論演習	湯本	
後期	グローバル教育論	湯本	
	卒業研究準備演習	湯本	
集中	国際キャリア教育	湯本ほか2名	2名は国際学部の教員
	国際キャリア実習	湯本ほか2名	2名は国際学部の教員
通年	卒業研究	湯本	卒業論文指導

(3) 全学科目（Learning+1）

学期	科 目 名	担当教員	備 考
不定時	国際インターンシップ	湯本・飯塚ほか	国際インターンシップWG
集中	グローバル化の進展と日本の展望	綿貫	日本語と英語で行う集中講義
	Global Sustainable Development Issues	綿貫	英語で行う集中講義
	Globalization and Society	湯本	英語で行う集中講義
	International Political Economics	兒嶋	英語で行う集中講義
	Risk Management	青木	英語で行う集中講義

(4) とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目

学期	科目名	担当教員	備考
集中	グローバル化の進展と日本の展望	綿貫	日本語と英語で行う集中講義
	Global Sustainable Development Issues	綿貫	英語で行う集中講義
	Globalization and Society	湯本	英語で行う集中講義
	Risk Management	青木	英語で行う集中講義

(5) 国際学研究科・博士前期課程

学期	科目名	担当教員	備考
後期	グローバル教育研究	湯本	
通年	国際学臨地研究	湯本	
	国際交流特別研究／国際社会特別研究	湯本	修士論文指導

(6) 国際学研究科・博士後期課程

学期	科目名	担当教員	備考
後期	国際教育政策研究	湯本	

(7) 全学科目 (Advanced Learning+1)

学期	科目名	担当教員	備考
集中	Globalization and Society	湯本	英語で行う集中講義

(湯本 記)

1.3 留学生プログラム

(1) 日本語・日本文化研修留学生プログラム

留学生・国際交流センターでは旧称「留学生センター」として発足以来、文部科学省の国費留学生である「日本語・日本文化研修留学生」(略称「日研生」)を毎年受け入れている。

日研生は10月に来日後、必修科目4科目、および基盤教育科目、各学部専門科目、留学生・国際交流センター科目の中から自分の研修テーマに関連する選択科目12科目を履修する。そして、日本語能力の向上と日本文化に関する専門知識の深化を図るとともに、担当教員や指導教員の下で研修を進め、帰国までにその成果を研修レポートとして提出する。

1) 授業科目

科目種別	学期	授業科目名	単位数	開講部局
必修科目 (4科目)	前期(※1)	「日本語・日本文化Ⅱ」	2	留学生・国際交流センター
		「日研生特別研究Ⅱ」	2	留学生・国際交流センター
	後期(※2)	「日本語・日本文化Ⅰ」	2	留学生・国際交流センター
		「日研生特別研究Ⅰ」	2	留学生・国際交流センター
選択科目 (12科目)	上級レベル日本語科目	日本語アカデミック・リーディングⅡ	1	基盤教育センター
		日本語アカデミック・プレゼンテーション	1	基盤教育センター
		科学技術のための専門日本語	1	基盤教育センター
		人文社会系のための専門日本語	1	基盤教育センター
	言語・日本文化 関連の科目	日本事情	2	基盤教育センター
		Japanese Communication Arts	2	基盤教育センター
		多言語コミュニケーション学A	2	基盤教育センター
		多言語コミュニケーション学B	2	基盤教育センター
		日本語の表記	2	基盤教育センター



	Globalization and Society	2	国際学部
	グローバル教育論	2	国際学部
	移民と多文化教育	2	国際学部
	日本語論	2	国際学部
	日本語史	2	国際学部
	対象言語学	2	国際学部
	日本文化論	2	国際学部
	異文化間コミュニケーション	2	国際学部
	日本文学史	2	教育学部
	日本文学概説A	2	教育学部

※1 前期：平成 28 年度日研対象 ※2 後期：平成 29 年度日研対象

2) 日本語・日本文化研修留学生修了レポート発表会

2016年9月末に、中国、香港、ベトナムの3か国から計3名の日研生が来日したが、2017年8月に、1年間の研修成果をまとめた修了レポート発表会を開催し、1年間のプログラムを無事に修了した。かれらの研修テーマは以下の通りであったが、日本語や日本文化に関するたいへんユニークなテーマが取り上げられており、学生たちの日本文化や日本社会に対する関心の高さをうかがうことができた。なお、同年12月に修了レポート集を発行したので、詳細は同レポートを参照されたい。

<実施概要>

日 時：2017年8月1日（火） 16:10～17:10

会 場：峰キャンパス 5号館C棟4階国際交流学習室

内 容：(司会) 飯塚 明子 (「日本語・日本文化研修留学生プログラム」担当教員)

①開会の辞：湯本 浩之 (留学生・国際交流センター副センター長)

②修了レポート発表：

1) 「来日中国人留学生のコミュニケーション (仮題)」…………… 呉 宇麗 (中国)
(講 評) 指導教員：吉田 一彦 (国際学部)

2) 「ポップカルチャーから見る方言の地位：日本の関西弁と香港の広東語 (仮題)」
…………… 甘 睿寧 (香港)
(講 評) 指導教員：佐々木 一隆 (国際学部)

3) 「日越のことわざにおける女性像の比較 (仮題)」…………… グエン・ゴック・フエン (ベトナム)
(講 評) 指導教員：吉田 一彦 (国際学部)

③閉会の辞：湯本 浩之 (「日本語・日本文化研修留学生プログラム」担当教員)

3) 富岡製糸場等での学外研修

上記発表会後の8月4日には、学外研修として、世界遺産に登録された群馬県の富岡製糸場のほか、妙義山信仰の中心となっている妙義神社を見学するなど、日本の近代化の歴史や山岳信仰について理解を深める機会を持った。

<実施概要>

日 時：2017年8月4日（金） 10:00～18:00

見 学 先：富岡製糸場および妙義神社 (いずれも群馬県富岡市)

参 加 者：呉宇麗、甘睿寧、グエン・ゴック・フエン

引率教員：湯本浩之、飯塚明子



富岡製糸場

4) 平成 29 年度日本語・日本文化研修留学生の受け入れ

2017 年 9 月末に、平成 29 年度の日本語・日本文化研修留学生（日研生）6 名が来日した。大学歴の後期にあたる研修前半（10 月～3 月）では、日本語・日本文化研修留学生プログラムの必修科目「日研生特別研究 I」の学外研修として、以下のような他部局や学外組織の主催によるプログラムに参加した。

なお、後期の授業終了時点（2018 年 1 月）での研修テーマは以下の通りである。研修後期にあたる来年度前半は、さらにテーマを検討しながら修了レポートを執筆していくこととなる。

① 「とちぎの文化体験！モニターツアー」

栃木県立博物館主催の標記ツアーに参加した。このツアーは、主に外国人観光客に対する各種サービスの向上を目的に、県内の代表的な文化施設である県立博物館をはじめ、益子町の益子参考館などの観光施設を見学して、留学生の視点から助言や提案を得ることを目的としたものである。

＜実施概要＞

日 時：2017 年 10 月 14 日（土） 12:30～18:00

主 催：栃木県立博物館・栃木県立美術館

コース：B コース（宇大正門前出発 → 県立博物館見学 → 益子参考館見学 → 益子焼絵付け体験 → 宇大）

なお、10 月 8 日（日）には A コース（県立美術館、大谷石資料館）が実施されたが不参加。

参加費：無料

参加者：日研生 6 名

引率者：湯本浩之・飯塚明子（留学生・国際交流センター）



「モニターツアー」ちらし

② フィールドワーク&シンポジウム「国際交流都市日光の再発見：まちづくりと観光開発プラン」

国際学部附属多文化公共圏センターと日光市国際交流協会が共催した標記のフィールドワークとシンポジウムに参加した。このプログラムは、宇大の留学生や海外体験のある学生を対象に、日光の世界遺産を見学するほか、人口流出が続く市内の過疎地域を訪問した上で、①国際観光開発、②国際交流、③地域づくり、の 3 つの視点から日光の魅力を見直し、今後に向けた提言を行うことを目的としたものである。

＜実施概要＞

日 程：2017 年 12 月 3 日（日）、10 日（日）および 16 日（土）

主 催：国際学部附属多文化公共圏センター・日光市国際交流協会

参加費：無料

参加者：日研生 6 名

引率者：湯本浩之・飯塚明子（留学生・国際交流センター）

内 容：

1. オリエンテーションと第 1 回フィールドワーク（12 月 3 日）

午前：日光行政センターにてオリエンテーション

午後：フィールドワーク（グループに分かれ、日光東照宮周辺において外国人観光客や商店主にインタビュー調査）

2. 第 2 回フィールドワーク（12 月 10 日）

午前：日光市栗山地域へ移動、「平家の里」見学

午後：グループに分かれ、湯西川温泉街周辺で外国人観光客や商店主



「日光フィールドワーク」ちらし

らにインタビュー調査。

3. 公開シンポジウム（12月16日 10:00～13:00、宇大大学会館）

フィールドワークを参考に「日光市のまちづくりと観光開発への提言」をグループ毎に発表。

③平成29年度日研生の研修テーマ（2018年3月現在）

名前	国籍	大学名	研修テーマ
金智潤（キム ジュエン）	韓国	祥明大学校	日本と韓国の宗教観の違い
唐懿昕（トウ イキン）	中国	寧波大学	日本人の伝統的生死観
楊璐丹（ヨウ ロタン）	中国	電子科技大学	時制から現代英語、日本語、中国語の中の過去、現在、未来の完結相と継続相を見る
SATTHASOMBOON SUTTHINEE（サッターソム ブーン スッテイニー）	タイ	カセサート大学	日本語発音能力における自己評価の違いに影響を及ぼしている個人的要因：タイ人日本語学習者の場合
Leung Hai Wah（レン ハイワ）	香港	香港大学	日本と香港の学校で教える死の準備教育の対比
ISMOILOV KHUSHBAKHT BAHROMJONOVICH（イス モイロフ フシュバフト）	タジキスタン	タジキスタン国 立言語大学	日本における相撲の歴史

（湯本 記）

2 相談体制・生活支援

2.1 基本的認識

下記の〔事前の対策〕と〔様々な制約の中での適切・迅速な対応〕については、毎号ほぼ同じ文章を掲載している。これは、留学生・国際交流センターが実施する「相談・指導」の根本に関わるからである。

〔事前の対策〕

留学生の置かれている立場は不安定なものである。一見何の問題もなく、元気で楽しく過ごしているようにみえる留学生でも、日本という「異国=外国」での生活は母国同様であるはずがなく、常にストレスと隣り合わせの毎日である。留学生と接する教員・職員は、このことを基本的認識として心にとどめ、日頃から彼らの行動や表情に注意を払う必要があるだろう。そして何らかの変化が見えたとき、留学生に歩み寄り、その変化に危険な要素が含まれていないかどうかを確認することが常に求められている。つまり、すでに起こってしまった問題にどのように対処するかということ以前に、問題を起こさないための事前の解決が極めて重要な任務となる。

〔様々な制約の中での適切・迅速な対応〕

しかしながら、全ての留学生にまんべんなく接することは不可能と言わざるをえない。そこから何らかの問題が生ずることは避けられない事実でもある。実際のところ、大学が提供している生活環境、就学環境は、残念ながら必ずしも適正なものとはいいがたい。それが原因となり留学生の心理が揺らぎ、留学生の生活に重大な影響を与えることもありうる。留学生を取り巻く環境を改善するには多額の資金が必要となり、大学全体として取り組む姿勢が十分整っていない現実は遺憾と言わざるをえないが、そうした状況であっても、留学生と接する教員・職員は、むしろその中でより良い相談体制、より良い生活支援はどうあるべきかを考えると同時に、様々な制約下の現状でも実践できるものを実践して行くという姿勢が必要である。特に深刻な問題を抱える留学生に対しては、解決に向けて適切に対応し、迅速に行動することが求められる。

2.2 相談体制

留学生・国際交流センター専任教員2名が、生活・就学相談の担当者である。授業中、または授業の前後に何気なく交わす会話も重要である。「相談」と改まって構えるのではなく、留学生が言葉で表すことができている、その時々々の心理状態を自然な対応で探ることが出来るからである。それにより、深刻な事態になる以前に留学生の気がかり、不安、現実的な問題を取り除く役割を果たしている。

2名の教員各自がオフィスアワーを設け、出来る限り留学生の相談に乗れる体制も取っている。留学生は、このオフィスアワーに、授業等で接する機会の多い教員の所へ相談に行く傾向がある。その際、留学生によっては長い滞在中、精神的に不安定な状態に陥る者もある。これはかなり深刻なケースであり、そのような場合、彼らは相談相手として先ず自分が最も信頼でき、しかも母国語でコミュニケーション出来る人を求める。当センターの2名の教員とも、英語に堪能であり、実際に、深刻な問題を抱えて担当教員を訪れた留学生もいる。言語に関しては完璧とまでは行かないまでも、ある程度整った環境であると判断される。

留学生・国際交流課の職員も、留学生の相談に大きな役割を果たしている。彼らが諸手続等を行うために留学生・国際交流課の窓口に来た際、積極的に留学生に話しかけ、心配事、相談したいことがないかどうか、常に配慮している。特に、交通事故、病気などの連絡が入った場合、休日を問わず、留学生をサポート出来る体制となっている。また、英語及び中国語に堪能な職員が数名おり、留学生のサポート体制を強化している。

留学生国際交流会館に居住する留学生に対しては、センター教員及び協力教員が相談担当者となっている。

4月及び10月の週に1日、夕方から数時間、これらの教員が交代で会館に向いて留学生の相談に当たっている。

この様に、相談体制については、相談・指導担当の教員だけでなく、センターの教員・協力教員・職員が総動員で当たっている現状である。

【平成29年度留学生・国際交流センター専任教員のオフィスアワー】

曜日 教員名	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	E-mail *@以下は、 cc.utsunomiya-u.ac.jp
湯本		12:00～13:00				yumoto@
飯塚			10:00～12:00			iizuka@

2.3 相談実績

留学生・国際交流センターでは、留学生の様々な生活上の問題について相談を受けるのは当然のことながら、それに加えて日本人学生の留学関連の相談や、留学生と日本人学生の交友・交流に関するアイデア、企画に関する相談等も行っている。以前は、個々の相談に関する情報（日時、内容、留学生・日本人学生等の種別）を表で示していたが、実際に行った相談を全て記録することが実質的に不可能なので、2011年号以降、表による実績表示を止めている。相談・指導と言っても、教員は授業等の大学における通常の主要業務にも携わっており、主に時間的理由により後回しとなり、重要であるなしに関わらず、また、手抜きということではなく、記録漏れとなってしまふ。また、近年ではメールや電話による連絡、問い合わせ、または相談が増加しており、これらを全て完璧に記録できる状況ではない。このような場合における対応の仕方は、大学全体として考えて行く必要がある。尚、参考データとして、平成29年度に相談に来た留学生及び日本人学生数は、実数が105名で延べ112名である。

以下、相談内容の概要を記述する。

〔留学生〕

修学・学習／進学（大学院受験等）／アルバイト／奨学金／各種保証人／在留資格・ビザ取得

〔日本人学生〕

留学相談（留学先の情報、留学前の学習、各種書類作成）／チューター関連／留学生との交流

上記以外に、個々の教員が個別に相談・指導に当たっていることは既に記述した通りである。例えば、レポートや論文の書き方指導・添削、授業関連の相談等は、個々の教員が行っている場合が多く、その方がより効率的である。

留学生の相談で深刻なものは、やはり経済的な問題である。特に、奨学金や入寮に関するものが重要なものである。例えば、本国からの仕送りが十分ではなく、奨学金も受給できず、授業料免除も受けられず、学生寮（国際交流会館）にも入れず、また、条件の良いアルバイトが見つげにくい、または病気・事故で身体を壊してしまい、アルバイトが出来ないという場合である。このような場合が、考えられる最悪のものである。実際、このような状況に置かれる留学生が毎年少なくとも1～2名おり、相談に当たることになる。その場合、個人的にはただ話を聞くのみで、根本的な解決に結びつくようなことは何も出来ないのが実状である。しかし、学生寮については、第1寮で6室、第2寮において4室、それぞれ留学生が入寮できる体制になっている。所謂、学生寮の「混住化」である。1年以上の長期間滞在する留学生の場合、国際交流会館には1年間しか居住できず、それ以後は高額な民間のアパート等に引っ越ししかなかったが、「混住化」により比較的安価な学生寮に住むことが可能になっ

た。しかし、第1寮及び第2寮の全室とも満室の状態であり、さらに混住用の部屋を増やす必要がある。また、大学近辺の比較的安価なアパートをまとめて大学として契約し、これを留学生用の住居に充てることも検討する必要がある。いずれにしても、大学が、留学生の経済面を考慮した支援体制をより一層充実させて行くよう、センターとして積極的に働きかけて行きたい。

(横田 記)

2.4 支援活動

(1) 留学生アドバイザー

本学の在學生で、日本人学生と外国人留学生間の交流促進のため、各種イベントを企画・実施している。留学生アドバイザーには、海外留学経験者や海外留学予定者の他、外国人留学生も含まれている。留学生・国際交流センター等が実施する留学生関連の交流会や、留学生の生活上のサポート等にも協力するなど、幅広く活動している。

(2) チューター

外国人留学生に対し、各留学生の学習・研究指導（予習・復習の手伝い）を中心に、日本語指導、日常の世話（学内外の案内、諸手続き、買い物、宿舎探しの補助等）を行う。チューターの支援を必要とする留学生ごとに、留学生の専門や出身国及び語学力等を勘案し、チューター1名を割り当てている。チューターは、留学生が大学院生・研究生の場合は入学後最初の1年以内、学部生の場合には最初の2年以内で、指導教員の判断により必要と認める期間配置されている。

2.5 各種オリエンテーション

外国人留学生に対しては、交換留学生や学部新入学生を対象に、宇都宮大学において勉学する際に必要な日本語科目、基盤教育関係科目、日本での生活をする上での諸注意等に関するオリエンテーション及び説明会等を実施した。

(1) 国際交流会館入居説明会

- ①日 時：平成29年3月31日（金）、4月7日（金）、4月14日（金）、4月21日（金）
- ②場 所：国際交流会館集会室
- ③内 容：国際交流会館における生活上の留意事項

(2) 4月来日留学生（学部留学生を除く）オリエンテーション

- ①日 時：平成29年4月5日（水） 13：30～16：50
- ②場 所：峰キャンパス 4A35 教室
- ③内 容：1) 横田センター長のお話
2) 教員の紹介
3) 職員の紹介
4) 日本で生活する際に注意すべき大事なこと
5) 授業登録及び授業スケジュール等
6) 日本語の授業について
7) 中級日本語短期留学プログラム説明会

**(3) 学部新入学生オリエンテーション**

- ①日 時：平成 29 年 4 月 12 日（水） 17：45～18：20
- ②場 所：峰キャンパス 4A35 教室
- ③内 容：1) 留学生・国際交流センター長挨拶
2) 留学生日本語科目について
3) 大学生活について

(4) 4 月来日留学生生活上の留意事項説明会

- ①日 時：平成 29 年 4 月 13 日（木） 14：30～16：00
- ②場 所：峰キャンパス 4A35 教室
- ③内 容：1) 留学生・国際交流センター長挨拶
2) 日本で生活する際に注意すべき大事なこと
3) 交通の決まり、防犯について（宇都宮東警察署から）

(5) 国際交流会館退去説明会

- ①日 時：平成 29 年 7 月 14 日（金） 15：00～16:00
- ②場 所：国際交流会館集会室
- ③内 容：1) 国際交流会館での退去各種手続き
2) 国際交流会館以外での各種手続き

(6) 平成 29 年度交換留学生のための大学院進学説明会

- ①日 時：平成 29 年 7 月 24 日（月） 15：30～16：00
- ②場 所：峰キャンパス 5号館 C 棟 国際交流学習室
- ③内 容：1) 留学生・国際交流センター長挨拶
2) 各研究科の紹介
3) 各研究科の入試日程等

(7) 10 月来日留学生オリエンテーション

- ①日 時：平成 29 年 9 月 29 日（金） 14：10～16:00
- ②場 所：峰キャンパス 4A35 教室
- ③内 容：1) 留学生・国際交流センター長挨拶
2) 教員の紹介
3) 職員の紹介
4) 日本で生活する際に注意すべき大事なこと
5) 授業登録及び授業スケジュール等
6) 日本語の授業について
7) 日本語・日本文化研修プログラム説明会
8) 中級日本語短期留学プログラム説明会

(8) 国際交流会館入居説明会

- ①日 時：平成 29 年 10 月 3 日（火） 10：00～11:00
- ②場 所：国際交流会館集会室
- ③内 容：国際交流会館における生活上の留意事項

(9) 10 月来日留学生生活上の注意事項説明会

- ①日 時：平成 29 年 10 月 3 日（火） 15：30～17：00
- ②場 所：峰キャンパス 4A35 教室
- ③内 容：1) 留学生・国際交流センター長挨拶
2) 交通のきまり、防犯について（宇都宮東警察署から）
3) 日本で生活する際に注意すべき大事なこと

(10) 国際交流会館退去説明会

- ①日 時：平成 30 年 1 月 12 日（金） 13：00～14：00
- ②場 所：国際交流会館集会室
- ③内 容：1) 国際交流会館での退去各種手続き
2) 国際交流会館以外での各種手続き

（留学生・国際交流課）



3 留学生交流支援

3.1 栃木県地域留学生交流推進協議会

本協議会は、栃木県における留学生等の円滑な受入の促進と交流活動の推進を図り、地域住民の国際理解に寄与するために設立されたもので、県内の高等教育機関、国の機関、地方公共団体、経済団体及び国際交流団体等で構成されている。本学が事務局となっており、本年度は6月に総会、2月に運営委員会を開催した。

(1) 栃木県地域留学生交流推進協議会総会

- ①開催日時：平成29年6月15日（木） 15：30～
- ②議 題：1) 平成28年度栃木県地域留学生交流推進協議会実施事業について
2) 平成28年度本推進協議会実施事業経費決算について
3) 平成29年度本推進協議会実施事業計画（案）について
4) 平成29年度本推進協議会実施事業経費予算（案）について
5) 平成29年度本推進協議会感謝状贈呈候補者（案）について
6) その他
- ③報告事項：1) 平成28年度県内各種団体等による主な外国人留学生交流・支援事業について
2) 本推進協議会事業会計に係る平成28・29年度監査員について
3) その他

(2) 栃木県地域留学生交流推進協議会・運営委員会

本運営委員会は、栃木県地域留学生交流推進協議会規約（以下「協議会規約」という。）第8条第2項の規定に基づき設置され、協議会規約第3条に規定する協議事項について、具体的な実施方策を協議している。

- ①開催日時：平成30年2月22日（木） 15：30～
- ②議 題：1) 平成29年度本推進協議会実施事業について
2) 平成29年度本推進協議会実施事業経費決算について
3) 平成30年度本推進協議会実施事業計画（案）について
4) 平成30年度本推進協議会実施事業経費予算（案）について
5) 平成30年度本推進協議会感謝状贈呈候補者について
6) その他
- ③報告事項：1) 平成29年度県内各種団体等による主な外国人留学生交流・支援事業について
2) 本推進協議会事業経費に係る平成30・31年度監査員について
3) その他

(3) 留学生指導教員及び事務担当者研修会

本研修会は、栃木県内の大学、短期大学、高等専門学校において、留学生に対する教育、指導・相談を担当する教職員が一同に会し、留学生の受入れ・派遣における教職員相互の協力のあり方等について討議することにより、今後の留学生指導・支援の充実に資することを目的として、本「推進協議会」が開催するものである。本年度は、以下のとおり研修会を実施した。

- ①開催日時：平成29年12月1日（金） 13：30～15：30
- ②講 義：「日本留学アワードで評価された取り組みについて」
- ③情報交換：1) 日本国際教育支援協会の留学生向け保険の運用について
2) 学内の学資等貸付金制度の有無と留学生の利用について

- 3) 留学生と日本人学生との交流促進について
- 4) 留学生の就職率向上のための支援方法について（日本語力強化、セミナー等の実施状況）
- 5) 留学生の就職支援体制について
- 6) アルバイトの管理体制について（超過労働を防止するために）
- 7) 留学生の在籍管理（留学生に関する問題、アルバイトと授業の管理、授業の欠席者や成績不振者への対応）
- 8) 国際寮の管理について（クレーム対応、部屋割り、担当部署、担当者数、民間アパート入居の場合との対応の違い）
- 9) 災害発生時の留学生への対応について（避難先や安否確認方法）
- 10) その他情報交換

（留学生・国際交流課）

3.2 交流支援事業

(1) 平成 29 年度新規留学生のためのガイダンス及び懇親ティーパーティー

①開催日時：平成 29 年 5 月 27 日（土）10：30～14：00

②実施内容：地域留学生交流推進協議会及び公益財団法人栃木県国際交流協会共催による平成 29 年度新規留学生のためのガイダンス及び懇親ティーパーティーを開催し、留学生及び関係者約 90 名が参加した。



懇親ティーパーティー

(2) 平成 29 年度留学生との交流会

①開催日時：平成 29 年 6 月 15 日（木）17：10～18：40

②実施内容：宇都宮大学内において地域留学生交流推進協議会主催による交流会を開催し、県内高等教育機関に在籍する留学生約 80 名、栃木県地域留学生交流推進協議会構成員及び宇都宮大学教職員等計約 50 名が参加した。



留学生交流会

(3) 県内留学生ホームステイ・プログラム

日本の家庭での日常生活を体験することを通して留学生と県民の交流を図り、相互理解を促進することを目的に、栃木県地域留学生交流推進協議会と協議会の構成員である（財）栃木県国際交流協会との共催で、県内大学等に在学する留学生を対象としたホームステイ・プログラムを毎年実施している。

本年度は、栃木県内のホストファミリーの協力を得て 1 泊 2 日の日程で実施し、留学生は日本家庭の生活を体験した。

①開催日時：平成 29 年 10 月 21 日（土）～10 月 22 日（日）

②場 所：県内各地のホストファミリー宅

③参加者数：留学生 18 名、ホストファミリー 17 家庭

(4) 外国人留学生と地域交流団体等との交流会

国際理解、異文化交流の推進に寄与するため、留学生への日本文化の紹介・体験、地域交流団体の方々との異文化交流等を毎年行っている。本年度は、インドネシア、ガーナ、チェコ、イギリスなど11カ国からの留学生、近隣自治会、国際交流団体の関係者及び教職員等多くの参加を得て実施した。

- ①開催日時：平成29年12月12日（火）14:30～18:30
- ②場 所：大学会館（多目的ホール・和室・トークルーム）
- ③参加者数：約120名
- ④プログラム：14:30～16:00 日本文化体験（和服の着付け・茶道・華道・折り紙）
16:00～18:30 国際交流パーティー



日本文化体験（茶道）



日本文化体験（着付け）



国際交流パーティー

(留学生・国際交流課)

3.3 小・中・高等学校での国際交流

栃木県内の小・中・高校からの要請により、本学の留学生を各学校の授業にゲストとして派遣し、交流や対話の場を提供している。留学生と児童・生徒が直接触れ合う国際交流を通じて、留学生にとっても日本の児童・生徒にとっても、異文化理解や異文化コミュニケーションを図る上での貴重な機会となっているとの評価が各学校から寄せられている。交流内容は様々であるが、予め派遣する留学生の国籍を伝えておくことで、児童・生徒にその国について予習させることができ、交流時には予習した知識から留学生に多くの質問が活発に寄せられる。留学生にとっても母国の良さを改めて感じる良い機会となっている。交流当日のみならず、その後も電子メール等で連絡を取り合い、長期的な交流ができていく学校もある。

<交流実績：計4件>

1) 宇都宮大学教育学部附属小学校

日 程：平成29年6月20日（火）、7月13日（木）

派遣人数：留学生19名

交流内容：小学生と会食（給食体験）小学生による日本文化の発表見学

2) 栃木県立宇都宮高等学校

日 程：平成 29 年 12 月 18 日（月）

派遣人数：留学生 7 名

交流内容：日本語で母国のプレゼンテーション発表、ディスカッション

3) 栃木県立栃木翔南高等学校

日 程：平成 29 年 12 月 19 日（火）

派遣人数：留学生 5 名

交流内容：日本語で母国のプレゼンテーション発表、ディスカッション

4) 宇都宮大学教育学部附属中学校

日 程：平成 30 年 2 月 15 日（木）

派遣人数：留学生 4 名

交流内容：自国の中学生の学習についてパネルディスカッション



宇都宮高校での国際交流



栃木翔南高校での国際交流

(留学生・国際交流課)



4 留学生の獲得施策

4.1 日本留学フェアなどへの参加

留学生・国際交流センターでは、これまで日本学生支援機構(JASSO)主催による日本留学フェアに参加してきたが、本年度は、北海道大学や在スリランカ日本大使館がエチオピアとスリランカで主催する留学生獲得を目的とした関連行事に参加する機会を得ることができた。これら行事に当センター関係者を派遣したので、その概要を以下に報告する。

(1) エチオピア

国立大学法人北海道大学ルサカオフィス（文部科学省委託コーディネーター配置事業）の主催で、日本留学フェアがエチオピア国で開催され、本学はアフリカで開催される同フェアに初めて参加した。同フェアの内容等を以下に報告する。

1) 開催概要

- ①日時：平成 29 年 9 月 20 日（水曜）
- ②会場：アディスアババ大学 メコネンホール（エチオピア国）
- ③参加機関：日本学生支援機構、北海道大学、宇都宮大学、東京外国語大学、京都大学、国際大学（新潟）、東京農業大学、芝浦工業大学（資料参加 20 大学）
- ④本学参加者：福村一成（農学部）
- ⑤来場者数：約 300 名

2) 配布資料

- ①ブース訪問者：大学ロゴ入りボールペン
- ②配付希望者：大学案内、データブック、各学部パンフレットなど

3) 主な相談内容

大部分が奨学金、生活費などの留学資金に関するものと教員との研究分野の 検索方法・コンタクト方法であった。

- ・留学生数、大学院留学生数と JASSO 奨学金受給者数（JASSO の奨学金について説明が直前のセッションであった）。
- ・ABE-Initiative の奨学生、大学独自の奨学金の受給者数や受給できる可能性、応募方法など。
- ・奨学金の種類、規模、受給可能性、応募方法、生活費と奨学金の支給金額、キャンパス内アルバイトの可能性と内容は。
- ・奨学金の金額と生活費（学生寮や宿舎はあるのか、食事の提供は、費用は）
- ・大学院の入試、入試の事前準備、入試は英語で受験できるのか。



会場のメコネンホール



現地の広報用パンフレット

- ・教員の研究テーマ、具体的なコンタクトは直接のメールで良いのか。
- ・主な使用言語（日本語、英語）と生活に必要な日本語は。
- ・大学の所在地と福島原発との距離や現在の状況、当時どんな影響があったか。

4) ブース対応の体制

- ・本学農学研究科および連合大学院修了の Bezawork Afework 氏（アディスアベバ大学准教授）に協力を依頼し、大学の概要説明とブースでの対応補助をお願いした。

5) その他

- ・当日（20日）は“Ethio-Japan Academic and Student Exchange Fair, 2018”として午後の日本留学フェアのほか、午前にはアディスアベバ大学関係者、周辺国の大学教職員、JSPS ナイロビ事務所、フェア参加大学など 100 名程度が参加して、学术交流の可能性を探るワークショップと京都大学・アディスアベバ大学両大学長による学术交流協定締結式が開催された。
- ・昼食会では、ワークショップ参加者が研究領域ごとのグループで交流・意見交換を行った。
- ・午後の日本留学フェアは、斎田伸一駐エチオピア大使の祝辞、文科省、JASSO より日本の留学振興・奨学金の説明、日本留学経験者の体験報告などに続いて、参加各大学のプレゼンテーションを行い、休憩を挟んで各参加大学のブースにて説明・Q & A セッション（2時間 + a）を行った。
- ・フェア翌日は卒業生の 90% 以上が留学する Sandford International School を訪問し大学説明の予定であったが、時間変更の影響で3大学のみ参加。（宇都宮大は不参加。後日、卒業生より大学紹介パンフレットなどの情報提供を行った）



学术交流ワークショップの様子

6) 所感

- ・本学ブース訪問者のほぼ全てが大学院への留学可能性を考えており、教員の研究分野や研究計画についての情報提供や問い合わせ方法の確認が多かった。他ブースでも同様の傾向であったと確認。さらにこれらの質問後、奨学金、学生宿舎・寮、生活費について尋ねていたのが印象的であった。
- ・参加大学数がこれまでの留学フェアと比べて少なかった（7大学）こともあり、各大学の資料を満遍なく収集していた。
- ・来場者は英語が流暢で意思疎通に問題がなかった。それでも本学ブースが他のどのブースよりも多くの来場者を集めていたのは、本学留学経験のあるアディスアベバ大学 Dr. Afework さんによるエチオピア語での対応のおかげであった。
- ・大学所在地を説明すると、福島原発からの距離や影響を尋ねられたことは印象的であった。
- ・大学や各学部の紹介パンフレットは英語（のみ）で作成する必要を強く感じた。日英両表記であっても、英語の文字が「薄い青色」で好評とは言えない反応であった。他大学が英語のパンフレットを準備している状況では本学の留学生受け入れをアピールする資料として疑問あり。
- ・今回の留学フェアの相談会では、各大学ブースで椅子に座っての「個別相談形式」ではなく、ブースを参加者が取り囲んでの、「ぶら下がり質問形式」で終始した。ネットアクセスや電源に制約のある途上国で、このような状況にも対応できる資料の工夫（配布資料の一部を大判で掲示など？）をしておくと感じた。



宇大ブース①



宇大ブース②

(福村 記)

(2) インドネシア

インドネシアでは、日本学生支援機構（JASSO）がスラバヤとジャカルタで主催した日本留学フェアに参加した。その概要を以下の通り報告する。

1) 主催等

- ①主催：(独) 日本学生支援機構（JASSO）
- ②共催：インドネシア元日本留学生協会
- ③後援：在インドネシア日本国大使館・在スラバヤ日本国総領事館
- ④協力：(独) 国際交流基金ジャカルタ日本文化センター

2) 開催都市・開催日時・開催場所

- ①スラバヤ： 2017年10月7日（土）9時30分から16時まで The Square Ballroom at ICBC Center Surabaya
- ②ジャカルタ：2017年10月8日（日）10時30分から17時まで Balai Sidang Jakarta Convention Center (JCC)

3) 本学参加者：

- ・湯本 浩之（留学生・国際交流センター教授）
- ・飯塚 明子（留学生・国際交流センター助教）
- ・松本 晴朗（留学生・国際交流課留学生係長）

4) 参加対象者

- ・高校生・大学生等留学希望者、高校等の進路指導担当教員、大学等の国際交流担当者等

5) 開催概要

- ①資料の展示・配付
 - ・参加機関ブースにおける学校案内、募集要項、シラバス等の資料展示及び配付
- ②個別相談
 - ・各参加機関の教育内容、入学試験、特色等に関する個別相談の実施
- ③セミナー
 - ・主催者等による日本留学概要および日本政府奨学金の説明
 - ・日本留学経験者による体験談等の発表

6) 参加機関／来場者数（主催者発表）

- ①スラバヤ：49機関／1,415名（前年度1,208名）
 - ②ジャカルタ：79機関／3,536名（前年度3,755名）
- ※ 来場者数合計：4,951名（前年度4,963名）

7) 本学ブース来訪者数

- ①スラバヤ : 約 100 名 ※ 前回 (2013 年) は 82 名
- ②ジャカルタ : 約 130 名 ※ 前回 (2013 年) は 129 名

8) 配付資料

- ・学校案内 (日本語・英語表裏 1 枚)
- ・学部私費外国人入試科目・日時表
- ・宇～太消しゴム
- ・宇都宮大学ロゴ入り蛍光ペン
- ・大学ロゴ入りクリアファイル

※ 以上 5 点を希望者に配布した。

9) 主な相談内容

- ・自分が勉強したい分野・コース、研究内容の有無
- ・本学所在地や宇都宮の気候、生活費等
- ・入試内容
- ・奨学金・授業料免除内容

10) 所感

- ・両日とも、日本学生支援機構が手配した通訳 1 名を加えた 4 名体勢で対応したが、スラバヤ・ジャカルタ共に 100 名を超えるブース来訪者があった。通訳者はスラバヤとジャカルタで能力や知識の差が大きく、ジャカルタだけでも宇都宮大学の元留学生らの協力が望まれた。
- ・英語を話せる学生が多いため意思疎通の問題は無かったが、資料のうち、英語で記載されているものは一部分のため説明に労力を要した。各学部英語のパンフレットがあれば分かりやすいように思うが、英語の講義の数があまり多くないので、英語でコースを修了できる研究科は英語パンフレットの準備が望まれる。
- ・学部志望者には、入学試験には高い日本語の能力が必要である旨を案内すると、それでも興味があるから大学の概要を教えて欲しいという意欲のある学生も多かった。
- ・大学院志望者には各教員の研究分野等を案内し、説明を行ったが、多くの学生が奨学金についての情報を求めており、授業料免除のほかに、なにかしら生活補助的なものも必要であることを痛感した。また、宇都宮での生活費を確認する学生も多く、海外留学の金銭面でのハードルがいまだに高いことも感じられた。
- ・保護者同伴である学生や、受験する年齢に達していない学生も多く、家族そろって留学を検討している家族も見受けられ、留学意欲の高さがうかがえた。
- ・本学では、日本語を使う必要のある学部よりも、大学院レベルに集中して英語での情報等を充実させることも、戦略の一つとしても良いと感じた。
- ・本学既存の広報資料 (「入学案内」「Databook」など) は用途や対象を異にしているので、留学フェア等に来場する留学希望者向けの広報用資料 (チラシやパンフなど) を複数言語で作成することを今後早急に望みたい。

11) その他

日本留学フェア終了後の 10 月 9 日に、ジャカルタ市内にある国際交流基金ジャカルタ日本文化センターと国際協力事業団 (JICA) インドネシア事務所を訪問し、両団体による留学生や日本人学生を対象とした日本語教育ならびに国際交流活動の情報提供を受けた。その結果、次のような事業が紹介されたことから、今後はこれら事業への応募や参加の可能性を検討していくこととしたい。

- ①国際交流基金「日本語パートナーズ」派遣
- ②国際交流基金「大学連携日本語パートナーズ」派遣

③国際協力事業団「Innovative Asia (イノベーター・アジア)」事業



ジャカルタ会場でのブース展示



国際交流基金ジャカルタ事務所を訪問

(湯本・飯塚 記)

(3) スリランカ

在スリランカ日本大使館の主催による日本とスリランカの教育機関が参加するネットワーク会合が行われ、本学はこれに初めて参加した。その概要は以下のとおりである。

1) 開催概要

- ①日 時：平成 30 年年 1 月 22 日 (月) 8:30 ~ 13:30
- ②会 場：キングスバリーホテル (コロンボ市内)
- ③参加機関：日本側の参加者は、日本大使館と日本の 9 つの教育機関 (JASSO、大学、語学学校) の関係者、スリランカ側の参加者は、大学 7 (ケラニア大学、サバラガムワ大学、コロンボ大学、ペラデニア大学含む)、高校 24、日本語語学学校、帰国留学生会など
- ④本学参加者：飯塚明子 (留学生・国際交流センター 教員)
- ⑤内 容：日本国大使館参事の挨拶の後、日本の各教育機関から 10 分ずつ英語でプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションの後、日本の機関ごとにテーブルに分かれて、参加したスリランカの関係者に留学や交流等についての相談会を行なった。



飯塚教員による宇大プレゼンテーション



各テーブルでの相談会

2) 主な相談内容

- ・どのような奨学金があるのか
- ・宇大の授業料や宇都宮での生活費はどのくらいかかるか
- ・文科省の大学推薦はあるのか
- ・医学部があるかどうか
- ・日本語教育のコースがあるかどうか
- ・宇大にスリランカの学生が交換留学で行くにはどのような条件があるのか
- ・国際インターンシップで宇大の学生を受け入れるにはどうしたらいいのか等

3) 所感

- ・日本の国立大学の参加は宇都宮大学のみだったため、宇都宮大学のテーブルが一番人気が出て、相談するための列ができた。大使館が事前に参加者や会場等準備してくれたおかげで、短時間で日本留学に興味のあるスリランカ関係者に、宇都宮大学を広報するいい機会になった。
- ・通常の留学フェアでは学生やその父兄が参加しているが、今回は教育関係者間のネットワーク会合なので、留学に限らず大学間の国際交流について話をするいい機会になった。



参加者の集合写真

(飯塚 記)

4.2 外国人学生への進学説明会

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）は、「外国人学生のための進学説明会」を東京及び大阪で年に1回ずつ主催している。この説明会は、日本の日本語教育機関等に在籍し、大学等への進学を目指している外国人留学生を主な対象として、進学希望にあった大学等を選択できるよう、全国から大学等が参加して、入試情報をはじめ、教育・研究上の特色等に関する最新で的確な情報の提供を行うものである。留学生・国際交流センターでは、この説明会を外国人留学生獲得のための重要施策のひとつと位置づけ、毎年教職員を派遣している。今年度の実施概要等は以下の通りである。

(1) 外国人学生への進学説明会（東京会場）

1) 実施概要

- ①日 時：平成 29 年 7 月 9 日（日）10：00～16：00
- ②場 所：サンシャインシティ 文化会館 2F サンシャイン展示ホール D
- ③主 催：独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）（担当部署：留学生事業部留学情報課）
- ④参加機関：183 機関（大学・短期大学 148、専門学校 32、関係機関 3）
- ⑤来場者数：2,263 名（主催者発表による）

2) 本学ブース

- ①担 当 者：飯塚 明子（留学生・国際交流センター教員）
内田 由佳（入試課）
館 智恵子（留学生・国際交流課）
- ②来訪者数：53 名（学部進学希望者 38 名、院進学希望者 11 名、日本語学校教職員 4 名）
- ③主な相談内容：
 - ・入試の内容（受験科目、日程、過去の入試問題、日本留学試験や語学試験の最低必要点数等）

- ・自分が勉強したい分野があるか、研究テーマが合致するか
- ・経済的支援に関する質問（奨学金の有無、平均的な生活費等）
- ・入学後の学生生活支援に関する質問（寮、就職支援等）
- ・所在地等の基本事項

3) 配布資料等

①全員配布：

- ・宇都宮大学 GUIDEBOOK 2018（日本語版）
- ・宇都宮大学ノベルティグッズ（フリクション蛍光ペン及び宇～太消しゴム）

②希望者のみ：

- ・各学部パンフレット
- ・2017 夏のオープンキャンパスちらし
- ・教員専門分野一覧
- ・国際交流会館案内
- ・『入学者選抜要項』私費外国人留学生入試のページの英訳版
- ・研究生募集概要
- ・栃木県観光案内パンフレット

4) 所感

- ・来年4月の進学を念頭に、具体的な計画を持って相談に訪れる留学生が多かった。本学進学希望と明言し来場する留学生も少数ながらいたが、大多数は面談を通して本学が自分の希望や条件に合っているかを確認していた。
- ・来場者とのコミュニケーションは日本語が主であった。配布資料のうち『入学者選抜要項』私費外国人留学生入試のページは、英訳版よりも日本語版のコピーを大量に持っていく方が適切だったと思われる。
- ・来談者は日本の語学学校に通っている学生がほとんどで、4月から大学に入学したいと希望している学生が一番多く、次に母国で大学を卒業したので日本で研究生か大学院に入りたい学生もいた。
- ・全体的に、国際学部または工学部について質問する留学生が多かった。
- ・「教員専門分野一覧」は、来談者から研究領域の具体的な相談があった際に非常に役に立った。ただし問い合わせのあった教員が一覧に載っておらず、出張者のスマートフォン等によるインターネット検索を併用したケースもあった（身分が講師で大学院に所属していない教員だったためと推察される）。
- ・来談者とのコミュニケーションは日本語が主であった。配布資料のうち『入学者選抜要項』私費外国人留学生入試のページは、英訳版よりも日本語版のコピーを大量に持っていく方が適切だったと思われる。
- ・加えて、『入学者選抜要項』の情報提供方法を説明するページのコピーもあったとよかった。
- ・本学全体の留学生数や就職先といった具体的な内容の質問もあった。手持ちで「宇都宮大学 DATABOOK」もあったとよかった。
- ・各学部パンフレットは足りなくなり、欲しいと言われた人にもあげられなかった。10時の開場以降15時くらいまで宇大ブースに絶え間なく学生が訪れ、質問内容が幅広く、細かい質問も多くあり、資料の数も多いためブースの管理が大変だった。全員に配付しない資料はファイルでまとめてすぐに取り出せるようにして、記録表はペンと一緒にクリップボードに挟むことで管理しやすくなるのではないかと。

（飯塚・留国課 記）

(2) 外国人学生への進学説明会（大阪会場）

1) 実施概要

- ①日 時：2017 年 7 月 15 日（土）10：00～16：00
- ②場 所：梅田スカイビル アウラホール（10 階）
- ③主 催：独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）（担当部署：留学生事業部留学情報課）
- ④参加機関：130 機関（大学・短期大学 107、専門学校 21、関係機関 2）
- ⑤来場者数：全体 1,761 名（主催者発表による）

2) 本学ブース

- ①担 当 者：湯本 浩之（留学生・国際交流センター教員）
上野 量才（留学生・国際交流課係長）
- ②来場者数：35 名（学部進学希望者 22 名、大学院進学希望者 3 名、日本語学校職員 6 名、その他（民間）1 名）
- ③主な相談内容：
 - ・入試の内容（受験科目、日程、応募要項、過去の入試問題、日本留学試験や語学試験の最低必要点数 等）
 - ・自分が勉強したい分野があるか、研究テーマが合致するか、大学院や研究生の場合事前に教員に連絡すべきかどうか、教員の連絡方法
 - ・経済的支援に関する質問（奨学金の有無等）
 - ・入学後の学生生活支援に関する質問（学生寮等）
 - ・その他所在地等の基本事項

3) 配付資料等

- ①全員配付：
 - ・宇都宮大学 GUIDE BOOK 2018 平成 29 年度入学案内
 - ・宇都宮大学ロゴ入り消しゴム
- ②希望者配付：
 - ・各学部パンフレット
 - ・2017 夏のオープンキャンパスちらし
 - ・教員専門分野一覧
 - ・国際交流会館案内
 - ・『入学者選抜要項』私費外国人留学生入試のページ（抜粋）
 - ・研究生募集概要
 - ・栃木県観光案内パンフレット

4) 所感

- ・宇都宮大学の所在地など理解していない学生が多かった。
- ・希望分野としては、建築、観光、経済、文学、心理学などが多かった。
- ・教育学部に関する質問も数名からあり、日本で教職に就くことを志望していたが、教育学部を卒業すれば教職に就けると誤解しており、日本の教員採用制度について理解していない学生が多かった。なお、公立学校新規教員選考要項では日本国籍を有しない者を任用する場合は、期限を付さない常勤講師とすると記載されていることから、教員免許は取得できるが一般の教諭とは職位は異なるのが現状である。
- ・資料に関しては、特に不足は生じなかった。
- ・来談者の中に宇都宮大学を志望している者はおらず、宇大への都道府県別入学者の実績（平成 28 年度）を見ても、大阪府からは 1 名、関西圏からも合わせて 5 名（留学生数は不明）である。今後、関西圏

からの留学生の獲得についての本学の方針を確認するとともに、大阪会場への来年度以降の参加を見送ることも検討してもよいのではないかと。

(湯本・留国課 記)

4. 3 交換留学生のための大学院進学説明会

本学への交換留学生の本学各研究科への留学を奨励し、その教育・研究の特色や入試内容・日程等に関する情報を提供する目的で、留学生・国際交流センターでは、平成23年度から「交換留学生のための大学院進学説明会」の開催を実施してきている。平成29年度の実施概要は以下の通りである。

- ①日 時：平成29年7月24日(月) 15:30～16:00
- ②場 所：5号館C棟 国際交流学習室
- ③参加者：本学に在籍している交換留学生(特別聴講生)
- ④配布資料：

- ・大学院入試関係スケジュール表
- ・国際学研究科学生募集要項
- ・教育学研究科学生募集要項
- ・工学研究科学生募集要項
- ・農学研究科学生募集要項
- ・本学大学院担当教員教育研究専門分野一覧表

⑤内容：

- ・開会挨拶：留学生・国際交流センター長 横田 信三
- ・各研究科の紹介：留学生・国際交流センター副センター長 湯本 浩之
- ・大学院入試関係スケジュール：留学生・国際交流課長 阿部 好子
- ・質疑応答

(湯本・留国課 記)

4. 4 宇都宮大学サテライト・オフィス

宇都宮大学の国際交流の発展に向けた初めての海外拠点として、平成29年度にタイ国のカセサート大学キャンパス内に宇都宮大学サテライト・オフィスが開設された。10月には石田学長も出席して、開設記念式典を開催した。

サテライト・オフィスには、交換留学や研究目的でカセサート大学やその他のタイの大学に留学している宇大学生の支援、宇大教員によるタイでの共同研究や現地調査研究の支援、在タイ宇大同窓生(タイ人及び日本人)の同窓会活動の支援、宇大の教育・研究活動の広報、タイからの留学生の勧誘など、多様な活動・任務が期待されている。

カセサート大学はカセサートの名称が農学・農業系科学を意味することから、農学を出発点としながらも、自然科学全般から工学、さらに人文・社会系学部を含む総合大学で、タイにおける最有力大学のひとつである。宇大にとってはもっとも古い国際交流協定締結校のひとつであり、



サテライト・オフィスの入口

もっとも活発な学術交流の実績をもつ大学でもある。これまでに 20 名以上のタイ人留学生が宇大で修士あるいは博士の学位を得ているほか、数十名のタイ人学生が交換留学や教員研修などで宇大で学ぶとともに、宇大からの交換留学生派遣も毎年 3 名程度の実績を示してきた。大学院修了生の多くは有力大学の教員として働いており（カセサート大 7 名、キングモンクット工科大、タマサート大など）、とくにカセサート大の副学長（2 名）やキングモンクット工科大の副学長など、まさに重要な役職で活躍されている人材を輩出している。さらに、農学部森林科学科では、毎年両大学で相互に学生研修を実施している。

こうした経緯からサテライト・オフィスをカセサート大学（農学部本部棟内）に設置することになったが、交流の対象はカセサート大学にとどまらず、他の交流協定締結校（アジア工科大学院（AIT）、キングモンクット工科大）をはじめ、その他の大学も可能な限りカバーすることになっている。以下に、初年度の主な活動を紹介する。

1) 開設記念式典]

2017 年 10 月 18 日、カセサート大学農学部本部棟（ワッチラヌソーン・ビルディング）において、サテライト・オフィス開設式典を開催した。本学からは石田朋靖学長と後藤（国際交流担当特命教授）が、カセサート大学からは Damrong 副学長代行（宇大同窓生）、Sutkhet 農学部長、Sudsaisin 農学部副学部長、Chamaipak 国際交流局長などが出席した。

また、式典には宇大のタイ人同窓生およびバンコク在住の日本人同窓生にも案内を出して出席を呼びかけ、それぞれ数名の出席を得ることができた。その席上でタイにおける宇大同窓会の設立について提起を行い、出席の同窓生の総意で設立の基本方向が確認された。式典のあとは、大学近くのレストランに会場を変えて、懇親会が開かれた。



石田学長から Damrong 副学長代行に
宇大章の贈呈



テープカット

2) 交換留学生の支援

2017年7月から2018年5月にかけて、国際学部の3年生3名が交換留学生としてカセサート大学で学んだ。折に触れ、学修状況について話を聞いたり、幅広い交流機会を提供したりしている。

3) 共同研究・現地調査研究の支援

地域デザイン科学部の大森玲子教授からタイにおけるナマズの生産から流通、消費・調理法までの実情について調査したいとの連絡を受け、セサート大学でナマズに詳しい研究者を紹介するとともに、現地調査の準備に協力。2018年1月21日から24日の日程で、大森教授が指導学生3名とともにタイを訪れ、現地調査を実施した。

4) 宇都宮大学タイ国同窓会(UU-AA Thailand)の設立

タイにおける宇大同窓会の設立に向け、同窓生の名簿の整備を始めるとともに、会則等の素案を作成した。サテライト・オフィス開設記念式典の折りに、出席した同窓生から同窓会設立を進める総意が得られたことから、正式発足のための第1回総会を2018年8月に開催する予定である。同窓会の英語名称を Utsumomiya University Alumni Association in Thailand (略称 UU-AA Thailand) とし、会員種別は、(1) 宇大において学士あるいは修士・博士の学位を取得したタイ人の卒業生・修了生、(2) 交換留学生・研修生として1年程度宇大留学を経験したタイ人で入会希望者、(3) タイに在住、滞在している日本人の宇大卒業生・修了生で入会希望者、の3つのカテゴリーを予定している。会員名簿については、今後徐々に整備を進める必要がある。

5) 研究留学の支援

連合農学研究科博士課程の学生(農業機械専攻)が開発途上国における農業機械の現状・課題について知識を得るため、カセサート大に留学を希望していることから、受け入れ教員の手配など、研究留学に関わる種々の支援を行った。



淡水魚市場の見学・調査



ナマズ養殖場にて Dr.Sukkrit とともに



同窓生との懇親会

(後藤 記)

4. 5 平成 29 年度国費（学部進学）留学生への大学進学説明会

(1) 東京外国語大学

1) 実施概要

- ①日 時：平成 29 年 10 月 25 日（木）13：00～17：00
- ②場 所：東京外国語大学 留学生日本語教育センター
- ③参加機関：27 校（文系 14 校+理系 13 校）
- ④参加留学生数：51 名（文系 26 名+理系 25 名）
・主な国籍（韓国 6 / ブラジルおよびインド各 4 / シンガポール・タイ・ベトナム各 3）
- ⑤本学参加者：飯塚明子（留学生・国際交流センター教員）
- ⑥内 容：各大学が 3 分で大学説明を行った後に、教室ごとのブースに分かれて、1 時間の相談会を行った。

2) 主な相談内容

- ・本学のブースに 6 名（インド、コロンビア、韓国、イラン、カンボジア、インドネシア）が来訪し、私の専門分野が事前に共有されていたのか、文系の中で国際協力、国際関係、NGO といった特定の分野を学びたい学生がブースに来て情報交換できたことがよかった。

3) 所感

- ・北海道大学、東北大学、筑波大学、埼玉大学、横浜国立大学、一橋大学など、主に東日本を中心とした国立大学の多くが参加していた。
- ・ブース訪問の時間は 1 時間で来談者はあまり多くはないが、日本語のレベルが高く、目的意識が高い学生が多かった。
- ・これまで宇都宮大学に来た国費学部留学生についての情報や、国費学部留学生の宇都宮大学への入試方法について、ブースで説明できるように事前に調べておく必要があった。

（飯塚 記）

(2) 大阪大学

1) 実施概要

- ①日 時：平成 29 年 11 月 2 日（木）第 2 部 15：00～18：30 ※午前中には第 1 部が行われた。
- ②場 所：大阪大学日本語日本文化教育センター（箕面キャンパス）
- ③参加機関：28 校（文系 14 校+理系 13 校）
- ④参加留学生数：48 名（文系 25 名+理系 23 名）
- ⑤本学参加者：湯本浩之（留学生・国際交流センター教員）
- ⑥内 容：最初の約 1 時間で各大学が 3 分で大学紹介を行った後に、各教室に分かれて、約 30 分の入れ替え制で大学別の個別相談会が 4 回実施された。

2) 主な相談内容

- ・本学のブース（教室）には、4 回の相談会で計 7 名（インド、コロンビア、韓国、イラン、カンボジア、インドネシア）の学生が来訪した。いずれも政治、経済、法律などの文系志望の学生であったが、政治、法律、経済などの選考希望者がブースに来て情報交換できたことがよかった。

3) 所感

- ・ブース訪問の時間は 1 時間でブースの来訪者はあまり多くはないが、日本語のレベルが高く、目的意識が高い学生が多かった。



- ・これまで宇都宮大学に来た国費学部留学生についての情報や、国費学部留学生の宇都宮大学への入試方法について、ブースで説明できるように事前に調べておく必要があった。

(湯本 記)

5 日本人学生の海外派遣留学の推進・支援

5.1 海外留学説明会

グローバル人材の育成が叫ばれている今日、留学生・国際交流センターでは、海外に目を向け、交換留学はもちろん、短期の語学留学などに積極的にチャレンジしようとすることを学生に奨励するため、学生に対する様々な機会をとらえて以下のような説明会を開催した。

入学式後の保護者ガイダンスにおいては、留学情報や経費の説明を、新入生ガイダンスにおいては留学情報や各種留学説明会の開催予定を周知した。その後、全学生を対象としたグローバル教育や各種留学プログラムの説明会を年度当初に集中して実施して、海外での学修経験や異文化体験などの意味や価値について学生の意識付けを図った。

(1) 保護者向け留学情報説明会

- ①日 時：平成 29 年 4 月 5 日（水）
- ②場 所：各学部説明会会場
- ③内 容：1) 宇都宮大学のグローバル教育について
2) 各種留学プログラムについて
3) 経費について
4) 各種留学説明会の日程について

(2) 学部新入生向け留学情報説明会

- ①日 時：平成 29 年 4 月 7 日（金）
- ②場 所：各学部説明会会場
- ③内 容：1) 宇都宮大学のグローバル教育について
2) 各種留学プログラムについて
3) 経費について
4) 各種留学説明会の日程について

(3) グローバル教育に関する説明会

- ①日 時：平成 29 年 4 月 11 日（火） 17：50～19：10
- ②場 所：峰キャンパス 5B11 教室
- ③内 容：1) 理事による概要説明
2) Learning+1「グローバル人材プログラム」について
3) 大学コンソーシアムとちぎ「グローバル人材育成プログラム」について
4) 海外英語研修について
5) 短期留学および国際インターンシップについて
6) 経費支援について

(4) 海外留学説明会

- ①日 時：平成 29 年 4 月 14 日（金） 17：50～18：50
- ②場 所：峰キャンパス 5B11 教室
- ③内 容：1) 私費留学について
2) 留学の種類について
3) 交換留学について

- 4) 協定校私費留学について
- 5) 短期研修プログラムについて
- 6) 経費支援について

(5) 海外英語研修説明会

- ①日 時：平成 29 年 4 月 18 日（火） 17：50～18：50
- ②場 所：峰キャンパス 5B11 教室
- ③内 容：1) 海外英語研修とは
2) プログラムの内容について

(6) 平成 29 年度交換留学説明会及び留学体験報告会

- ①日 時：平成 29 年 6 月 13 日（火） 16：10～18：10
- ②場 所：峰キャンパス 4B33 教室
- ③内 容：1) 海外留学全般に関する説明
2) 平成 30 年度交換留学（派遣）について
3) 交換留学のための奨学金について
4) 単位認定制度について
5) 海外留学と就職について
6) 留学体験報告会

(7) 交換留学フェア

- ①日 時：平成 29 年 10 月 10 日（火） 17：00～18：30
- ②場 所：UU プラザ
- ③内 容：交換留学からの帰国学生によるブース説明会



帰国学生によるブース説明会

（留学生・国際交流課）

5. 2 国際インターンシップ

宇都宮大学の「グローバル人材育成プログラム」の一環として、2014 年度から、栃木県内に本社や事業所を置く企業の海外支社や海外事業所等で就労体験を行う国際インターンシップを実施している。

6 年目となる本年度は、夏期インターンシップに 14 名、春期インターンシップに 10 名の合計 24 名を、ベトナム、カンボジア、タイ、スリランカ、シンガポール、ミャンマー、そしてアメリカの計 7ヶ国の企業団体等 13 組織へインターン生として派遣することができた（下記「派遣実績」参照）。

留学生・国際交流センターでは、夏期および春期の休暇中の約 2～5 週間の実習に先立ち、体験者の報告をはじめ、国際インターンシップの概要やその手続などの説明を目的とした報告・説明会を以下の通り開催した。

また、運営面では昨年度に設置された「国際インターンシップ・ワーキング・グループ（WG）」（下記「(4)」参照）が中心となり、応募者の面接や選考のほか、渡航前の各種手続等への助言指導を行った。今後も引き続き危機管理体制の充実や受入企業等の拡充を図っていくこととしたい。



報告会・説明会（4/19）の様子

(1) 平成 28 年度春期「国際インターンシップ」報告会および平成 29 年度夏期実施概要説明会

- ①日 時：2017 年 4 月 19 日（水）18：00～20:00
- ②場 所：宇都宮大学 UU プラザ 2 階 コミュニティフロア
- ③参加者数：学生 80 名 発表学生 7 名 来賓 3 名 教職員 14 名 合計：104 名
- ④内 容：（進行）湯本 浩之（留学生・国際交流センター）
 - 1) 開会挨拶…………… 横田 信三（留学生・国際交流センター長）
 - 2) 来賓企業紹介
 - 3) 平成 28 年度春期国際インターンシップ参加学生報告（3 組 7 名）
 - ・ Pacific Hotel（カンボジア）：飯塚瞳（国際学部 4 年）・小林凌大（国際学部 3 年）
 - ・ 株式会社エメール（ベトナム）：黒坂明善・宮内幸弥（工学部 3 年）
 - ・ BMF Global Trade & Consulting Service（ベトナム）：
 - 菅里咲子・清野ひかる・和田希歩（国際学部 3 年）
 - 4) 質疑応答
 - 5) 平成 29 年度夏期国際インターンシップ実施概要説明
 - …………… 阿部 好子（留学生・国際交流課長）
 - 6) 閉会挨拶…………… 横田 和隆（工学研究科教授）
 - 7) 懇親会

(2) 第 2 回「国際インターンシップ」報告・説明会

- ①日 時：2017 年 10 月 30 日（月）18：00～19：50
- ②場 所：宇都宮大学 UU プラザ 2 階 コミュニティフロア
- ③参加者数：学生 26 名 報告学生：14 名、来賓 10 名（5 社）
 教職員 12 名 合計：62 名
- ④内 容：（進行）湯本浩之（留学生・国際交流センター）
 - 1) 開会挨拶…………… 横田 信三（留学生・国際交流センター長）
 - 2) 来賓企業紹介

**国際インターンシップ
参加者募集**

募集期間 4/19(水) ▶ 5/10(水)

- ◆実習期間： 2017年8月～9月
- ◆実 習 国： タイ・ベトナム・カンボジア・シンガポール
ミャンマー・アメリカ等
- ◆対 象： 全学部学生
- ◆そ の 他： 助成金有り



体験&説明会

4/19(水) 18:00～19:30
@ 宇大 UU プラザ 2F
※参加申込不要/途中参加可

問合せ：国際インターンシップ事務局 028-649-9179（火・水）
留学生センター 留学生・国際交流センター 1F
留学生・国際交流課 028-649-5100（月・木・金）
mail：s-hayashiya.ja@utsunomiya-u.ac.jp 担当：林田

参加者募集ポスター

- 3) 平成 29 年度夏期国際インターンシップ参加学生報告 (8 組 14 名)
- ・ Pacific Hotel & Spa (カンボジア) : 吉川みゆき (国際学部 3 年)
 - ・ 株式会社キャム (タイ) : 椎名史織・森下楓 (国際学部 3 年)
 - ・ 株式会社エマール (ベトナム) : 千葉仁平 (農学部 2 年) 宮北祥平 (工学部 2 年)
 - ・ 一般社団法人海外農業開発コンサルタンツ協会 (ミャンマー) : 谷有美子 (農学部 3 年)
 - ・ 一般社団法人日本グローバル・イニシアティブ協会 (アメリカ) : 鎌田達磨 (教育学部 1 年)
 - ・ 日光ケミカルズ株式会社 : 澤口巧太・助川雄太 (工学研究科 1 年)
 - ・ BMF Global Trade & Consulting Service (ハノイ) : 太田川実沙・小野寺未早 (国際学部)
 - ・ BMF Global Trade & Consulting Service (ホーチミン) : 門上友紀・藤田萌々夏・須田愛 (国際学部 3 年)
- 4) 平成 29 年度春期国際インターンシップ
- ・ 実施概要説明…………… 阿部 好子 (留学生・国際交流課長)
 - ・ 新規受入先紹介…………… 松井 貞 (国際インターンシップ・コーディネーター)
- 5) 閉会挨拶…………… 横田 和隆 (工学研究科教授)
- 6) 懇親会

(3) 派遣実績

1) 平成 29 年度 夏期国際インターンシップ (7 組織 14 名)

	氏名	学部・研究科	学年	実習先企業	実習期間	実習国
1	吉川 みゆき	国際学部	3	Pacific Hotel & Spa		カンボジア
2	椎名 史織	国際学部	3	株式会社キャム		タイ
3	森下 楓	国際学部	3			
4	門上 友紀	国際学部	3	BMF Global Trade & Consulting Service Co., Ltd.		ベトナム (ホーチミン)
5	藤田 萌々夏	国際学部	3			
6	須田 愛	国際学部	3			
7	太田川 実沙	国際学部	3			
8	小野寺 未早	国際学部	3			ベトナム (ハノイ)
9	鎌田 達磨	教育学部	1	(一社) 日本グローバル・イニシアティブ協会		アメリカ
10	谷 由美子	農学部	2	(一社) 海外農業開発コンサルタンツ協会		ミャンマー
11	千葉 仁平	農学部	2	株式会社エマール		ベトナム
12	宮北 祥平	工学部	2			
13	澤口 巧太	工学研究科	1	日光ケミカルズ株式会社		シンガポール
14	助川 雄太	工学研究科	1			

2) 平成 29 年度 春期国際インターンシップ (6 組織 10 名)

	氏名	学部・研究科	学年	実習先企業	実習期間	実習国
1	平野優麻	地域デザイン	2	アプカス		スリランカ
2	小川紗理奈	国際学部	2	Pacific Hotel & Spa		カンボジア
3	竹中いろは	国際学部	2			
4	大根田 芽衣	国際学部	2	ケラニア大学		スリランカ
5	齋田 雛	国際学部	1			
6	伊藤 寛恵	国際学部	2	フエ外国語大学		ベトナム
7	石澤 華那	国際学部	1			
8	鳥崎 由衣	国際学部	1	たんぽぽ保育園		ベトナム
9	松田 悠希	教育学部	4			
10	井沢 賢人	工学部	3	株式会社キャム		タイ

(4) 国際インターンシップ・ワーキング・グループ (WG) の構成 (平成 29 年度)

所 属	氏 名	所属部局	職 名
グループ長	横田 信三	留学生・国際交流センター	センター長 (兼農学部教授)
グループ員	呉 世雄	地域デザイン学部	講師
	重田 康博	国際学部	教授
	吉田 一彦	国際学部	教授
	横田 和隆	工学研究科	教授
	福村 一成	農学部	准教授
	湯本 浩之	留学生・国際交流センター	教授・副センター長
	飯塚 明子	留学生・国際交流センター	助教
	松井 貞	留学生・国際交流センター	コーディネーター
事務局	阿部 好子	留学生・国際交流課	課長
	上野 量才	留学生・国際交流課	係長
	林田 智美	留学生・国際交流課	事務補佐員

(湯本・留国課 記)

5.3 海外渡航前危機管理オリエンテーション

留学生・国際交流センターでは、海外留学の推進を行うと同時に、複雑化する国際情勢や自然災害などから生じる危機から学生を守り、学生一人一人の危機管理意識の涵養を図るため、「海外渡航前危機管理オリエンテーション」を開催している。これは、交換留学や国際インターンシップで海外に留学する学生に参加を義務付けるとともに、夏休みなど長期休業期間を利用して海外に渡航する学生も対象としたものである。

今年度は、夏期と春期の国際インターンシップ等の実施に合わせて、7月と1月の計2回実施した。

(1) 平成 29 年度第 1 回海外渡航前危機管理オリエンテーション

- ①日 時：平成 29 年 7 月 18 日 (火) 16:10 ~ 17:40
- ②場 所：峰キャンパス 4B23 教室
- ③内 容：1) 開会挨拶
 …… 横田 信三 (留学生・国際交流センター長)
 2) 「危機管理サービス」について
 内藤 智行 (日本アイラック株式会社 CS 事業部)
 3) 海外渡航・海外滞在時の諸注意と各種手続きについて

(2) 平成 29 年度第 2 回海外渡航前危機管理オリエンテーション

- ①日 時：平成 30 年 1 月 16 日 (火) 16:30 ~ 18:00
- ②場 所：峰キャンパス 4B33 教室
- ③内 容：1) 開会挨拶湯本 浩之 (留学生・国際交流センター)
 2) 外務省ビデオ試聴
 「なぜ君がねらわれるのか」「海外へ渡航するあなたへ」
 3) 講話「危機管理について」
 … 湯本 浩之 (留学生・国際交流センター教員)
 4) 海外渡航・海外滞在時の諸注意と各種手続きについて

平成 29 年 6 月
留学生・国際交流センター
学務部留学生・国際交流課

平成 29 年度 (夏期)
**海外渡航前
危機管理オリエンテーション**

海外に出かける前に知っておくべき危険やその予防・対応策について説明します。今年度から宇大生が海外留学・研修に行く際に**加入必須**となった、海外留学保険と危機管理サービスについてもくわしくお伝えします。

日時：7月18日(火) 16:10~17:40 (予定)
場所：峰キャンパス4B23教室
内容：海外で想定される危険・トラブルについて
渡航前・渡航後の危機管理について
危機発生時の対応について
対象：**参加が必須の学生…H29年度交換留学候補者
夏期国際インターンシップをはじめ、
夏休み中に大学主催短期研修への参加者
私費での海外渡航(留学/短期研修等)を
控えている方**
参加をお勧めする学生…すぐには渡航の予定がないが、海外でのリスクを知っておきたい方
参加必須となっている学生のうち、当日どうしても参加できない方は、後日留学生・国際交流課(学務棟2階)へ来てください。

問合せ: 学務部留学生・国際交流課
TEL. 028-649-8187

参加者募集ポスター

(留学生・国際交流課)



5.4 マレーシア英語研修

宇都宮大学が大学間交流協定を結んでいるマレーシアのサラワク大学の協力を得て、本年度から新たに英語研修プログラムを実施することとなった。本研修は、英語研修による英語能力の向上だけでなく、サラワク大学が多民族国家であるマレーシアや自然環境の豊かなボルネオ島のサラワク州に立地していることから、課外活動などを通じて、多文化共生や生物多様性などのテーマ理解を深めることも目的としたプログラムとなっている。

(1) 実施概要

- ①日 時：平成30年2月8日（木）～2月23日（金）
- ②場 所：マレーシア・サラワク大学（University of Malaysia Sarawak）
- ③目 的：英語の総合的技能・運用能力を高めることに加えて、キャンパス内での寮生活を通じて、英語圏の国で生活する力を身につけることが目標である。また各学生の専門領域の見地から、現地でより深い交流や調査をすることも望まれる。
- ③参加者：学生20名（農学部10名、国際学部5名、地域デザイン学部3名、教育学部2名）
- ④引率者：出羽 尚（国際学部教員）
飯塚 明子（留学生・国際交流センター教員）
山本 由紀恵（留学生・国際交流課）

(2) 研修概要

- ①英語研修：サラワク大学の英語専門の教員3名による、アクティブラーニングを取り入れた30時間の集中英語研修（平日9：30～15：30）
- ②サラワク大学の日本語教育のクラスで現地の学生と交流したり、放課後大学内でカヤックや球技に参加
- ③課外学習：サラワク・カルチュラル・ビレッジ、マタン・ワイルドライフ・センター、サマジヤヤ森林保護区、樹木博物館、マルゲリータ砦等を訪問
- ④グループ調査：自然、文化、食べ物、衣類等、関心のあるテーマをグループで調査し、調査結果を3月13日の報告会で英語で発表
- ⑤研修期間中、サラワク大学の学生がバディとして上記の活動をサポート



英語研修の様子①



英語研修の様子②

海外英語研修プログラム in Malaysia

宇都宮大学では、新たな海外英語研修プログラムとして、協定校のマレーシア・サラワク大学（馬來亞聯合邦大学の一つ）において英語研修を実施します。

ASEAN、イギリス連邦の一員である多民族国家のマレーシアは、治安が安定し、第2公用語として英語が使用されています。そんなマレーシアのボルネオ島に位置する熱帯の自然豊かなサラワクで、リーズナブルに英語研修を受けることができます。

募集期間	平成29年11月8日（水）～11月30日（木）
募集人数	16名
募集対象	学部1年次～3年次
申込み先	留学生・国際交流課（学務棟2階）

プログラムの内容

研修期間 平成30年2月8日（木）出発 平成30年2月23日（金）帰国

研修場所 サラワク大学（マレーシア サラワク州クワンチン南西部）

研修内容 英語研修、英語による専門科目授業、自然・文化体験（海沿いでのレクリエーション等）

特 徴 宇都宮大学プログラム、ネイティブ教員（アソシエイト）を含めた指導、学生生活、宇都宮大学生2名に1名、サラワク大学生1名がバディとして参加、教職員同行

費用 研修費・旅費等 約180,000円

助 成 金 宇都宮大学から、経費の一部を助成（毎年ホリスティック英語研修生は、40,000円）

「海外英語研修」募集ポスター



参加学生たち

(飯塚 記)

5.5 海外渡航危機管理サービス

グローバル人材育成の観点から、本学では積極的に学生の海外留学や語学研修、国際インターンシップ等を推進しているが、その一方で、海外ではテロ、事件・事故、災害など各種のリスクが存在する。このことから、留学生・国際交流センターでは、これらのリスクに対応するための海外渡航危機管理サービスを本年度より導入した。具体的には、インターネット回線を通じて、現地学生への危機情勢や危険情報の伝達をはじめ、テロや災害などの危機発生時の学生の安否確認、事件事故発生時の緊急対応のほか、各種トラブルに関する 24 時間の電話相談などが可能な包括的なシステムを導入し、渡航時の危機管理体制や安心して海外渡航ができる体制を整備した。

また、以下のような危機管理や海外安全対策に関するセミナーに教員を派遣して、最新情報の入手に努めた。

(1) 平成 29 年度「大学国際交流・海外研修管理者向け危機管理セミナー」

- ①日 時：平成 29 年 6 月 5 日（月）
- ②場 所：AIU 損害保険株式会社大会議室（東京・新宿 NS ビル 14 階）
- ③共 催：日本アイラック株式会社・AIU 損害保険株式会社
- ④本学参加者：飯塚 明子（留学生・国際交流センター教員）
- ⑤主なプログラム：
 - <第 1 部>「対応事例に学ぶ初動対応の重要性」講師：伯耆田修氏（外務省領事局法人援護官）
 - <第 2 部>「想定事例に基づくワークショップ対応（模擬訓練）」担当：日本アイラック株式会社 CS 事業部
 - 「保険会社のアシスタンスサービスとは」担当：AIU 損害保険株式会社

(2) 外務省「教育機関向け海外安全対策セミナー」

- ①日 時：平成 30 年 2 月 22 日（木）
- ②場 所：フォーラムエイト会議室（東京・渋谷）
- ③主 催：外務省
- ④本学参加者：湯本 浩之（留学生・国際交流センター教員）



⑤主なプログラム：

講演1「海外での安全確保：政府の取組と皆様へのお願い」講師：相星孝一氏（外務省領事局長）

講演2「教育機関における安全対策の基本：生徒・学生の身は組織で守る」

講師：廣瀬孝次氏（(株)オオコシセキュリティコンサルタンツ）

講演3「緊急事態発生時の対応：大学・高校・本人」

講師：大越 修氏（(株)オオコシセキュリティコンサルタンツ）

（留学生・国際交流課）

6 各種協議会等への参加

6.1 平成 29 年度全国国立大学法人留学生センター長 及び留学生課長等合同会議

(1) 実施概要

- ①日 時：平成 29 年 11 月 10 日（金）
- ②場 所：富山国際会議場
- ③主催大学：富山大学
- ④本学参加者：横田 信三（留学生・国際交流センター長）
阿部 好子（留学生・国際交流課長）

(2) プログラム

- ①関係機関事業説明
 - 1) 文部科学省事業説明
 - 2) 独立行政法人日本学生支援機構事業説明
 - 3) 公益財団法人日本国際教育支援協会事業説明
- ②事例紹介「富山大学国際交流センター留学プログラムについて：ライデン大学短期日本語研修プログラム」
- ③議事
 - 1) 次期当番大学について
 - 2) 連絡・その他

（留学生・国際交流課）

6.2 平成 29 年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会

(1) 実施概要

- ①日 時：平成 29 年 11 月 9 日（木）
- ②場 所：ホテル金沢
- ③主催大学：金沢大学
- ④テーマ：「グローバル人材に求められる能力とは」
- ⑤本学参加者：夏秋 知英（副学長：グローバル戦略担当）
横田 信三（留学生・国際交流センター長）
阿部 好子（留学生・国際交流課長）

(2) プログラム

【第 I 部】文部科学省施策説明

- 1) 「安倍内閣の戦略的外交を支える教育協力と国際化を見据えた政策展開」
里見 朋香（大臣官房国際課長）
- 2) 「大学の国際化について」
新藤 和澄（高等教育局高等教育企画課国際企画室室長）
- 3) 「科学技術力分野における戦略的な国際展開について」
栗原 潔（科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官（国際担当）付室長補佐）

【第 II 部】パネルディスカッション

- 「グローバル人材に求められる能力とは：外国人留学生の就業力強化と日本人学生のグローバル育成」
ファシリテーター：大谷 吉生（金沢大学 副学長（国際担当））
パネリスト：長谷川 晃（北海道大学理事・副学長）

BENTON Caroline Fern (筑波大学副学長・理事 (国際担当))

渡辺 芳人 (名古屋大学理事・副総長)

PEZZOTTI Giuseppe (京都工芸繊維大学副学長)

里見 朋香 (文部科学省大臣官房国際課長)

(留学生・国際交流課)

6.3 平成29年度第1回国立大学法人留学生指導研究協議会

(1) 実施概要

- ①日 時：平成29年6月30日(金) 13:00～16:40
- ②場 所：東京大学 本郷キャンパス 情報学環 福武ホール (福武ラーニングシアター)
- ③主催大学：東京大学 国際本部国際センター 本郷オフィス
- ④本学参加者：飯塚 明子 (留学生・国際交流センター教員)

(2) プログラム

総合司会：渡邊 聡 (東京大学 国際本部国際センター 本郷オフィス長)

挨拶：関村 直人 (東京大学 副学長・国際本部副本部長)

- ①留学生受け入れ政策をめぐる現状と今後の課題
 - ・留学生政策の観点から：留学生政策の全体像
成相 圭二 (文部科学省高等教育局学生・留学生課課長補佐)
 - ・留学生受入れ戦略の再考と関係省庁の取り組み状況
白石 勝己 (公益財団法人アジア学生文化協会理事・事務局長)
- ②留学生30万人時代の留学生支援－個としての対応・組織としての対応
司会・企画主旨説明 大西 晶子 (東京大学 国際本部国際センター本郷オフィス)
- ③(留)学生のトラブルへの教職員の関わり方の基本：法的観点からの整理
宗像 雄 (弁護士、関谷法律事務所)
- ④全体質疑・意見交換

(飯塚 記)

6.4 平成29年度第2回国立大学法人留学生指導研究協議会兼第48回大阪大学留学生教育・支援協議会

(1) 実施概要

- ①日 時：平成30年2月2日(金) 13:30～19:00
- ②場 所：大阪大学吹田キャンパス 銀杏会館3階阪急電鉄・三和銀行ホール
- ③主催大学：大阪大学国際教育交流センター
- ④テ ー マ：「留学生が関係する緊急時における関係組織や関係者等との連携の工夫」
- ⑤本学参加者：飯塚 明子 (留学生・国際交流センター教員)

(2) プログラム

総合司会：有川 友子 (大阪大学国際教育交流センター)

挨拶：河原 源太 (大阪大学理事・副学長)

- ①留学生受入れに関する施策
コーディネーター：田中 京子 (名古屋大学国際機構国際教育交流センター教授)
- 1) 「学生の双方向交流の推進に関する予算案と政策について」

成相 圭二（文部科学省高等教育局学生・留学生課課長補佐）

2) 質疑応答

②事例紹介

1) 「持病を持つ学生の情報を事前に入手するシステムについて」

黒田 千晴（神戸大学国際連携推進機構 国際教育総合センター准教授）

2) 「地域と連携した多言語による防災訓練について」

渡部 留美（東北大学高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター准教授）

③分科会「留学生が関係する緊急時における関係組織や関係者等との連携の工夫」

A：「健康問題」ファシリテーター：

堀尾 佳以（宇都宮大学大学院工学研究科講師）

青木麻衣子（北海道大学国際連携機構国際教育研究センター准教授）

B：「事件・事故」ファシリテーター：

藤田 糸子（京都大学大学院人間・環境学研究科講師）

岸田 由美（金沢大学理工研究域准教授）

C：「災害」ファシリテーター：

市島 佑起子（鹿児島大学グローバルセンター講師）

服部 明子（三重大学教育学部講師）

④各分科会からの報告と全体討論

閉会の挨拶： 有川 友子（大阪大学国際教育交流センター長）

（飯塚 記）

6.5 平成 29 年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会

(1) 実施概要

①日 時：平成 29 年 11 月 17 日（金）13：30～17：10

②場 所：大阪大学豊中キャンパス「シグマホール（基礎工学国際棟）」

③主催大学：大阪大学日本語日本文化教育センター

④本学参加者：飯塚 明子（留学生・国際交流センター教員）

(2) プログラム

①留学生政策をめぐる現状と取組 日本語・日本文化研修留学生について

松田 慎仁（文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室国費留学生係長）

②質疑応答

③拠点事業紹介

④報告 1「日研生プログラムの実践事例報告」報告大学：大分大学・大東文化大学・和歌山大学

⑤質疑応答

⑥報告 2「日研生の学びに関する報告」報告大学：京都大学・宮崎大学・大阪教育大学

⑦質疑応答

（飯塚 記）

Ⅲ 教員個人活動実績



活動実績：横田 信三

1. 研究課題

	課 題	小 課 題
1	樹木の病原菌に対する防御機構の解明	カバノアナタケ菌に感染したシラカンバ幼植物体に生成する特異的タンパク質のプロテオーム解析
		カバノアナタケ菌に感染したシラカンバ幼植物体に生成する特異的ペルオキシダーゼ及びフェノール性化合物の MALDI/TOF/MS イメージング解析
2	木質系バイオマスの有効利用に関する研究	マツノカタワタケが生産する菌体外セルラーゼの精製に関する研究
		シイタケが生産する菌体外タンパク質のプロテオーム解析
		シイタケ菌床栽培中に発生する菌床代謝水中のタンパク質の解析

2. 研究活動および成果

2-1. 発表論文・著書

	著者名	論文名・著書名	掲載雑誌等, または出版社	巻・号, 頁	年月
1	Aiso H., Ishiguri F., Toyoizumi T., Takashima Y., Aizawa M., Yokota S.	Relationships between tree size and reaction wood formation in 23 Japanese angiosperms	Journal of Wood Science	63, 307-312	2017
2	Hidayati F., Ishiguri F., Makino K., Tanabe J., Aiso H., Prasetyo V.E., Marsoem S.N., Wahyudi I., Iizuka K., Yokota S.	The effects of radial growth rate on wood properties and anatomical characteristics and an evaluation of the xylem maturation process in a tropical fast-growing tree species, <i>Gmelina arborea</i>	Forest Products Journal	67(3/4), 297-303	2017
3	アグン プラセティオ, 遠藤良太, 高島有哉, 石栗太, 田邊 純, 相蘇春菜, 亀山雄揮, 大塚紘平, 大島潤一, 飯塚和也, 横田信三	ケヤキにおける材質育種の可能性	森林遺伝育種	6, 40-45	2017
4	Iizuka K., Toya N., Ohshima J., Ishiguri F., Miyamoto N., Aizawa M., Ohkubo T., Takenaka C., Yokota S.	Relationship between ¹³⁷ Cs concentration and potassium content in stem wood of Japanese cedar (<i>Cryptomeria japonica</i>)	Journal of Wood Science	64, 59-64	2018
5	Fujise K., Yokota S., Sasamoto H.	Evaluation of allelochemicals, abscisic acid and coumarin, in leaf-origin suspension cultured cells of <i>Prunus yedoensis</i> using protoplast co-culture bioassay method	American Journal of Plant Sciences	9, 172-184	2018

2-2. 学会発表

	著者名	発表題名	学会名等	要旨集、頁	年月
1	千野 怜, 野寺開斗, 大島潤一, 石栗 太, 横田信三	癌腫病菌カバノアナタケ IO-U1 株に感染したシラカンバ幼植物体 No.8 の主茎に生成する特異的タンパク質のプロテオーム解析	第 35 回日本植物細胞分子生物学会 (さいたま) 大会	第 35 回日本植物細胞分子生物学会 (さいたま) 大会講演要旨集, p151	2017.8
2	相蘇春菜, 高島竜平, 石栗 太, Istikowati W.T., 横田信三	インドネシア・南カリマントンに生育するクチナシ属種が形成するあてのタイプ	第 68 回日本木材学会大会	第 68 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, A15-P-01	2018.3
3	千野 怜, 野寺開斗, 石栗 太, 大島潤一, 横田信三	カバノアナタケ菌 IO-U1 株に感染したシラカンバ幼植物体 No.8 の根における菌感染応答	第 68 回日本木材学会大会	第 68 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, A15-P-37	2018.3

4	野寺開斗、千野 怜、石栗 太、大島潤一、横田信三	カバノアナタケ菌 IO-U1 株に感染したシラカンバ幼植物体 No.8 の葉・葉柄に生成する特異的タンパク質のプロテオーム解析	第 68 回日本木材学会大会	第 68 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, A15-P-38	2018.3
5	トメンジャロガロバヤサ、石栗 太、相蘇春菜、高橋優介、横田信三、パーサンバヤルツェツェグ、チュルテムガンバータル	Stress-wave velocity of trees and dynamic Young's modulus of logs of <i>Larix sibirica</i> naturally grown in Mongolia	第 68 回日本木材学会大会	第 68 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B14-01-1030	2018.3
6	大島潤一、飯塚和也、石栗 太、横田信三、小名俊博	ユーカリにおける多糖類含有率と細胞形態との関係	第 68 回日本木材学会大会	第 68 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B15-P-01	2018.3
7	高橋優介、石栗 太、相蘇春菜、大島潤一、横田信三、高島有哉、平岡裕一郎、井城泰一	スギ未成熟材部における晩材仮道管 S2 層マイクロフィブリル傾角とエネルギー的性質の関係	第 68 回日本木材学会大会	第 68 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B15-P-09	2018.3
8	ノロブワンジルバンズラグチ、石栗 太、大島潤一、横田信三、井城泰一	東北地方に植栽されたカラマツ 10 クロウンにおける木材性質	第 68 回日本木材学会大会	第 68 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B15-P-14	2018.3
9	田邊 純、石栗 太、飯塚和也、横田信三、田村 明	統計モデルを用いたアカエゾマツ精英樹家系のマイクロフィブリル傾角の変異に関する解析	第 68 回日本木材学会大会	第 68 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B15-P-16	2018.3
10	村山勇介、五十嵐瑛、金野尚武、羽生直人、石栗 太、大島潤一、横田信三	ペクチンを添加した液体培地で生育したシイタケにおける菌体外糖質分解酵素活性の経時変化	第 68 回日本木材学会大会	第 68 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, O15-P-07	2018.3
11	飯塚和也、大竹勇希、大島潤一、石栗 太、横田信三	福島原発事故後 6 年間のスギ樹幹木部における 137Cs 濃度の分布パターンの経年変化	第 68 回日本木材学会大会	第 68 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, Q15-P-01	2018.3

3. 教育活動

3-1. 講義

	講義・授業名	前期 / 後期	種別・対象学年	単位数	備考
1	ノーベル化学賞周辺の化学	後期	基盤教育	2	
2	森林科学論Ⅱ	後期	農学部・1年生	2	分担(2名で担当)
3	国際森林科学論	前期	農学部・2年生	2	分担(6名で担当)
4	林産学実験	後期	農学部・2年生	1	分担(2名で担当)
5	森林基礎化学	前期	農学部・1年生	2	
6	森林化学	前期	農学部・2年生	2	
7	森林資源利用学	後期	農学部・3年生	2	
8	森林化学実験	前期	農学部・3年生	1	
9	森林資源利用学実習	後期	農学部・3年生	1	分担(2名で担当)
10	特別講義Ⅰ	後期	農学部・3年生	1	分担(2名で担当)
11	特別講義Ⅱ	前期	農学部・4年生	1	分担(2名で担当)
12	卒業論文	通年	農学部・4年生	6	
13	森林資源利用学特論	後期	農学研究科	2	
14	樹木生化学特論	前期	農学研究科	2	
15	林産化学特論	後期	農学研究科	2	

16	森林科学特別実験・演習Ⅰ	通年	農学研究科	2	
17	森林科学特別実験・演習Ⅱ	通年	農学研究科	2	
18	森林科学特別研究Ⅰ	通年	農学研究科	5	
19	森林科学特別研究Ⅱ	通年	農学研究科	5	
20	森林バイオマス学特論	後期	連合農学研究科	0.5	分担（4名で担当）
21	森林資源物質科学合同セミナー	前期	連合農学研究科	0.5	分担（10名で担当）
22	森林資源物質科学特別演習	通年	連合農学研究科	2	
23	森林資源物質科学特別研究	通年	連合農学研究科	6	

3-2. 大学院生論文指導

		学年	氏名	論文題目
修士課程	主指導	M 1	千野 怜	Proteome analysis of the infection-specific proteins produced in the roots of Japanese birch plantlet No.8 infected with <i>Inonotus obliquus</i> strain IO-U1
	主指導	M 1	Norovvanjil Banzragch	Wood properties in 10 clone Japanese larch trees planted in Tohoku area
博士課程	主指導	D 3	Yus Andhini Bhekti Pertiwi	Wood properties of two fast-growing tropical tree species, <i>Neolamarckia cadamba</i> and <i>Ochroma pyramidale</i> , planted in Indonesia
	主指導	D 3	Agung Prasetyo	Wood properties and anatomical characteristics of three <i>Eucalyptus</i> species and their two interspecific hybrids developed in Indonesia
	主指導	D 1	Bayasaa Tumenjargal	Wood properties of <i>Larix sibirica</i> trees naturally grown in Mongolia
	主指導	D 1	Retno Agnestisia	Proteome analysis of the infection-specific proteins produced in the callus and suspension-cultured cells of Japanese birch plantlet No.8 infected with <i>Inonotus obliquus</i> strain IO-U1

3-3. 卒業論文指導

	氏名	卒業論文題目
1	野寺開斗	カバノアナタケ菌 IO-U1 株に感染したシラカンバ幼植物体 No.8 の葉・葉柄に生成する特異的タンパク質の発現量解析
2	村山勇介	ペクチンを添加した液体培地におけるシイタケ菌体外多糖分解酵素活性の経時変化

4. 研究費

4-1. 取得研究費

種別	資金源・種別等	研究課題	代表者	金額（千円）	期間
学外助成	受託研究費	木質系炭塗料を用いた健康向上資材等の開発	横田信三	504	H29.4 ~ H30.3
学外助成	科学研究費補助金・基盤研究(C)(一般)	癌腫病菌に感染したシラカンバ植物体に生成するタンパク質の3次元画像網羅解析	横田信三	4,940	H29.4 ~ H32.3

5. 学内活動

種別	委員会・役職等	任期	備考
全学組織	留学生・国際交流センター長	H28.4 ~ H30.3	
全学組織	学術国際委員会・副委員長	H28.4 ~ H30.3	
全学組織	留学生専門委員会・委員長	H28.4 ~ H30.3	
全学組織	教育研究評議会委員	H28.4 ~ H30.3	
全学組織	教育企画会議委員	H28.4 ~ H30.3	
全学組織	教育企画会議 EMIR・質保証 WG 委員	H28.4 ~ H30.3	
農学部	農学部評議員	H28.4 ~ H30.3	

6. 学外活動

6-1. 学会活動

学 会 名	役 職 名	備 考
日本木材学会	会員、木材教育委員会委員	
日本農芸化学会	会員	
日本植物細胞分子生物学会	会員	
日本植物生理学会	会員	
日本質量分析学会	会員	
植物化学研究会	会員	
日本植物病理学会	会員	
日本核磁気共鳴学会	会員	
アメリカ植物病理学会	会員	
アメリカ質量分析学会	会員	
アメリカ植物生物学者学会	会員	
アメリカ化学会	会員	

6-2. 委嘱委員

組 織	委 員 会 名	備 考
(非公開)	(非公開)	H29.4 ~ H30.3
(非公開)	(非公開)	H29.4 ~ H30.3
一般社団法人森林・自然環境技術者教育会	運営委員会、分野審査委員会	
公益財団法人農学会	技術者教育推進委員会	



活動実績：湯本 浩之

1. 研究課題

	課 題	小 課 題
1	開発教育・グローバル教育・持続可能な開発のための教育(ESD)・シティズンシップ教育等の歴史研究や政策研究	欧州の新教育運動や英国のワールドスタディーズに関する研究
		英国や欧州連合における開発教育・グローバル教育・シティズンシップ教育などの政策に関する研究
2	参加型学習と参加型開発との比較研究	ワークショップやファシリテーションの理論や実践に関する研究
		P R A (参加型農村調査)やP L A (参加型学習行動)に関する研究

2. 研究活動および成果

2-1. 著書

	著者名	著 書 名	出 版 社	巻・号, 頁	年月
1	西あい・湯本浩之(共編著)	『グローバル時代の「開発」を考える：世界と関わり、共に生きるための7つのヒント』	明石書店	総300頁	2017年8月

2-2. 研究成果報告

	著者名	著 書 名	出 版 社	巻・号, 頁	年月
1	西あい・湯本浩之(共編著)	報告「グローバル化と開発問題研究会」	『開発教育』	64号、126-133頁。	2017年12月
2	湯本浩之・田中治彦・近藤牧子(共著)	報告「開発教育アーカイブ研究会：DEAR設立に至る開発教育のルーツを探るⅡ」	『開発教育』	64号、134-141頁。	2017年12月

2-3. 学会発表等

	発表者名	発表題目	学会名等	開催年月日	備考
1	湯本浩之	グローバル時代の「豊かさ」を考える：「貧しさ」とは「豊かさ」とは何か	開発教育協会第35回全国研究集会パネルトーク「グローバル時代の“豊かさ”を考える」	2017年8月5日	
2	湯本浩之	開発教育における「開発」概念の模索とSDGs	日本社会教育学会第64回研究大会ラウンドテーブル「SDGs(持続可能な開発目標)と社会教育(3)」	2017年9月17日	

2-4. 国際会議出席

	会 議 名	開催場所	開催年月日	備考
1	グローバル教育ロンドン会議「グローバル教育のための調査・根拠・政策研究」(共催：ロンドン大学開発教育研究センター、欧州グローバル教育ネットワーク(GENE))	ロンドン大学教育研究院(UCL-IOE)	2017年5月10～11日	

2-5. その他の研究活動

	種別・形態	研究課題名	期間	備考
1	共同研究	グローバル化と開発問題研究	2014年度から2017年度.	主催：開発教育協会
2	共同研究	開発教育のアーカイブ研究	2014年度から2017年度.	主催：開発教育協会

3. 教育活動

3-1. 講義・演習

	講義・授業名	学期	種別・対象学年	単位数	備考
1	ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会と私たち」	前期	基盤教育	2	総合系科目
2	ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	後期	基盤教育	2	総合系科目
3	グローバル教育論	後期	国際学部・2年	2	
4	国際キャリア教育	夏期集中	国際学部・1～4年	2	合宿セミナー（8月）
5	国際キャリア実習	不定時	国際学部・1～4年	2	他2名の教員と担当
6	グローバル教育論演習	前期	国際学部・3年	2	
7	卒業研究準備演習	後期	国際学部・3年	2	
8	卒業研究	通年	国際学部・4年	8	
9	国際インターンシップ	不定時	全学科目1～4年	2	同WGで運営
10	Globalization and Society	春期集中	全学科目1～4年	2	Learning+1
11	グローバル教育研究	後期	国際学研究科	4	博士前期課程
12	国際学臨地研究	通年	国際学研究科	8	博士前期課程
13	国際交流特別研究	通年	国際学研究科	6	博士前期課程
14	国際文化特別研究	通年	国際学研究科	6	博士前期課程
15	国際教育政策研究	後期	国際学研究科	2	博士後期課程
16	日研生特別研究Ⅰ	後期	日本語・日本文化研修留学生	2	留学生・国際交流センター開講科目
17	日研生特別研究Ⅱ	前期	日本語・日本文化研修留学生	2	留学生・国際交流センター開講科目

3-2. とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目

	講義・授業名	日程	分野	単位数	備考
1	国際キャリア開発	8/26～28	キャリア形成	2	
2	Globalization and Society	3/6～8	グローバルな教養と日本の文化	2	

3-3. 「大学コンソーシアムとちぎオリジナル授業科目」

	授業名	学期	受入対象	単位数	備考
1	グローバル教育論	後期	他大学生、高校、生社会人	2	
2	ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会と私たち」	前期		2	
3	ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	後期		2	

3-4. 大学院生論文指導（国際学研究科博士前期課程）

	種別	学年	氏名	論文題目
1	主指導	M2	湯 鈺茜 国際文化研究	中国の重点校制度がもたらす子どもへの悪影響に関する考察：西北工業大学付小学校を事例として
2	主指導	M2	金 麟 国際交流研究	日中両国における大学入試制度の比較研究
3	主指導	M2	高 岩 国際交流研究	中国における NPO の組織運営の現状と課題：遼寧省朝陽市における資金調達と人材育成の問題に注目して
4	主指導	M2	孫 斌 国際交流研究	中国の国際理解教育の現状と課題に関する一考察：保定市の小学校と高等学校に着目して

5	主指導	M2	高階 悠輔 国際交流研究	グローバル・シティズンシップ概念からみる開発教育実践の検討
6	副指導	M2	楊 静思 国際文化研究	日本語コミュニケーションにおける曖昧さの克服法：中国語母語話者の場合、断りの表現を中心に
7	副指導	M2	川島 賢 国際交流専攻	(仮題)「主体的・対話的で深い学び」をめざす高校国語教育についての一考察
8	主指導	M1	孔媛媛 国際交流専攻	(仮題)「中国と日本の教育機会の格差の比較について」
9	副指導	M1	于遠 国際交流専攻	(仮題)「中国の農村留守児童問題におけるNPOの役割と影響」

3.5. 卒業論文指導 (国際学部)

	種別	氏名	研究題目
1	指導・主査	中川 万由子	公害問題を含む環境教育推進の意義と課題に関する一考察：新潟県の公害教育実践の事例から
2	副査	梅津 杏奈	公立通信制高校が担う外国人生徒の進路保障
3	副査	武内 哲	発展途上国へのスポーツ支援とその変遷：青年海外協力隊の事例から
4	副査	栗原 万由香	ファンレイジングから見る日本のNGO/NPOの未来：クラウドファンディングはNGO/NPOにとって有効な手段か

3.6. 研究生研究指導

	氏名	研究期間	研究題目
1	楊 雅林	2016年10月～2018年3月	日本の国連外交の現状と展望についての考察：日本の「人間の安全保障」を中心に

3.7. 非常勤講師

	出講先	科目名	学期	単位数	備考
1	早稲田大学文化構想学部	ボランティアとNPO・NGO	後期	2	全学共通副専攻
2	上智大学大学院総合人間科学研究科教育学専攻	生涯教育学特別講義Ⅱ	後期	2	

3.8. 出張講義

	実施校名	講義・授業のテーマ	実施日	備考
1	福島県立あさか開成高校	大学出張講義「ワークショップで考える異文化理解」	7月7日	国際学部出前授業
2	栃木県立佐野高校	第3回SGHリレー講座「人権・教育・文化」	7月6日	スーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)事業

3.9. 講演・研修

	事業名・主催者	講義・研修のテーマ	実施日	備考
1	平成28年度「国際理解教育研修会」(主催：茨城県国際交流協会・茨城県国際理解教育推進協議会)	講演・ワークショップ「アクティブ・ラーニングを活用した国際理解教育の展開」	8月25日	対象：学校教員・一般市民など
2	平成28年度「三市町人権教育部会合同研修会」(主催：那須地区中学校教育研究会)	講義・ワークショップ「アクティブ・ラーニングで学ぶ世界の人権と多文化共生」	8月4日	対象：学校教員
3	平成28年度「上三川町教務主任研修会」(主催：上三川町教育委員会)	講義・ワークショップ「国際社会の変化に伴う学校教育でのアクティブ・ラーニングの必要性について」	6月30日	対象：教務主任

	事業名・主催者	講義・研修のテーマ	実施日	備考
4	2016 年度「ふくしまグローバル人材育成指導者セミナー」(主催: 福島県国際交流協会、JICA 二本松)	講義・ワークショップ「グローバル人材とは～どこから来て、どこへ向かうのか?～」	6 月 25 日	対象: 一般市民・学校教員・学生など

3.9. 学内表彰

	種別	対象授業科目名	備考
1	第 14 回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」	ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会と私たち」(基盤教育科目)	※ 昨年度に引き続き受賞

4. 学内活動

4.1. 各種委員会等

種別	委員会・役職等	任期	備考
全学	留学生・国際交流センター・副センター長	2017 年度～現在	
	点検・評価委員会・委員	2017 年度～現在	
	学務委員会・委員	2017 年度～現在	
	学生相談室・相談員	2017 年度～現在	
	国際インターンシップ・ワーキンググループ・メンバー	2016 年度～現在	
	ESD-GAP とちぎワーキンググループ・メンバー	2016 年度～現在	
	学術国際委員会・オブザーバー	2015 年度～現在	
学部委員会	学部・研究科点検・評価委員会・委員	2017 年度～現在	国際学部
	学部教員評価委員会・委員	2017 年度～現在	国際学部
	国際キャリア教育プログラム運営委員会・委員	2013 年度～現在	国際学部
	グローバル教育セミナー企画委員会・委員	2013 年度～現在	国際学部
センター内	国際交流部門担当	2013 年度～現在	
	「研究論集・センター年報」編集担当	2014 年度～現在	

5. 学外活動

5.1. 学会活動

学会名	役職名	備考
日本 ESD 学会	評議員・理事	
日本社会教育学会	会員	
日本環境教育学会	会員	
国際開発学会	会員	

5.2. 委嘱委員

組織等	役職・活動名等	備考
佐野市人権推進審議会	委員	

5.3. その他の学外活動(団体役職等)

組織等	役職・委員会名等	備考
NPO 法人開発教育協会	副代表理事	
公益財団法人 日本 YMCA 同盟	「地球市民育成プロジェクト」リソースパースン	
公益財団法人 生協総合研究所	「アジア生協協力基金」運営委員	
公益信託 今井記念海外協力基金	諮問委員	



活動実績：飯塚 明子

1. 研究課題

	課 題	小 課 題
1	国際協力と防災	海外の被災地（ベトナム、スリランカ等）におけるマルチアクター（政府、NGO、国際機関等）による防災分野の国際協力 防災分野の国際協力プラットフォームの構築
2	コミュニティ防災	国内外の被災地におけるコミュニティを核とした防災活動 郷土芸能と災害復興 フォーマル、及びインフォーマルな防災教育

2. 研究活動および成果

2-1. 発表論文・著書

	著者名	論文名・著書名	掲載雑誌等、または出版社	巻・号、頁	年月
1	Iizuka Akiko	Sustainable tourism in Japan: Kuriyama in Nikko City	Community Initiatives for Local Sustainability, Kyoto University, Hokuto Print Co.	Chapter VII, pp. 147-161	Mar., 2018

2-2. 学会および国際会議発表

	著者名	発表題名	学会および会議名等	要旨集、頁	年月
1	Iizuka Akiko, Tanaka Ueru	Living with disasters: livelihood strategies in central Vietnam	The 2 nd Joint Conference of Utsunomiya University and Universitas Padjadjaran: The Application of civil engineering and geosciences for regional development and safety, Utsunomiya	Proceedings of technical session for professionals, 7 pages	Nov., 2017
2	Iizuka Akiko	Coordination efforts in the case of the 2016 Cyclone Roanu in Sri Lanka	The 4 th Asian Conference on Urban Disaster Reduction, Sendai	Proceedings of 4 th ACUDR, 8 pages	Nov., 2017
3	Iizuka Akiko	Disaster education in Japan: Tagajo High School in Miyagi Prefecture	The Conference on Education, Transport and Disaster Management, Hong Kong	Core Conference 2018 Proceedings	Mar. 2018

2-3. その他

	著者名	論文名	掲載雑誌等、または出版社	巻・号、頁	年月
1	飯塚明子、田中樹	京都大学地球環境学 国際協力プロジェクト概要 ベトナム中部・自然災害常襲地での暮らしと安全の向上支援	ベトナムの社会と文化第 末成道男編、ベトナムの社会と文化研究会（研究報告）	第 8 号、pp. 312-320	2018.2

3. 教育活動

3-1. 講義

	講義・授業名	前期/後期	種別・対象学年	単位数	備考
1	日研究生特別研究 I	後期	日本語・日本文化研修留学生	2	留学生・国際交流センター開講科目
2	日研究生特別研究 II	前期	日本語・日本文化研修留学生	2	留学生・国際交流センター開講科目
3	海外英語研修	後期	演習・全学科目	2	マレーシア、サラワク大学に引率
4	国際インターンシップ	不定時	全学科目	2	同WGで運営

4. 学内活動

4-1. 取得研究費

種別	資金源・種別等	研究課題	代表者	金額(千円)	期間
学外助成	受託研究費 (防災・減災日本CSO ネットワーク)	ソーシャルキャピタルと東日本大震災 の復興プロセスにおける相関性のエビ デンス収集	飯塚明子	300	H29.6～10

5. 学外活動

種別	委員会・役職等	任期	備考
全学委員会	学術国際委員会・オブザーバー	2017 年度	
	留学生専門委員会・委員	2017 年度	
	キャリア教育・就職支援センター会議・オブザーバー	2017 年度	
	国際インターンシップ・ワーキンググループ・メンバー	2017 年度	
	EDS-GAP とちぎワーキンググループ・メンバー	2017 年度	
センター内	留学生指導相談委員	2017 年度	
	広報委員	2017 年度	

6. 学外活動

4-1. 学会活動

学会名	役職名	備考
国際開発学会	会員	
地域安全学会	会員	

IV 資 料

1 留学生在籍状況

(1) 留学生種別在籍者数 (2017年5月現在)

種 別	所 属	人 数	小 計
学部留学生	地域デザイン科学部	0	57
	国際学部	20	
	教育学部	3	
	工学部	23	
	農学部	11	
大学院留学生	国際学研究科	46	109
	教育学研究科	4	
	工学研究科	42	
	農学研究科	6	
	連合農学研究科	11	
研究生	地域デザイン科学部	2	24
	国際学部・国際学研究科	16	
	教育学部・教育学研究科	2	
	工学部・工学研究科	3	
	農学部・農学研究科	0	
	連合農学研究科	0	
	留学生・国際交流センター	1	
特別聴講学生 (協定校との交換留学生)		43	43
日本語・日本文化研修留学生		3	3
教員研修留学生		0	0
日韓理工系学部留学生		0	0
科目等履修生		1	1
合 計		237	237

(2) 国別留学生数 (国数：30カ国)

国 名	人 数	国 名	人 数	国 名	人 数
中国	115	ドイツ	3	エルサルバドル	1
ベトナム	25	ラオス	3	ガーナ	1
マレーシア	21	エジプト	2	ケニア	1
韓国	16	スリランカ	2	スロバキア	1
台湾	7	ネパール	2	チェコ	1
モンゴル	6	アメリカ	1	ボツワナ	1
インドネシア	5	アルゼンチン	1	メキシコ	1
バングラデシュ	5	イギリス	1	モロッコ	1
インド	4	イスラエル	1		
カンボジア	4	ウズベキスタン	1		
タイ	3	エチオピア	1	合 計	237

2 国際交流協定校との受入・派遣状況一覧

(1) 学生の大学間交流協定校との受入・派遣実績 (2018 年 3 月現在)

大学間交流協定校名	国名	区分	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	計
浙江工業大学	中国	受入	1	1	2	1	0	5
		派遣	0	0	0	0	0	0
カセサート大学	タイ	受入	1	2	4	1	3	11
		派遣	1	3	3	4	3	14
復旦大学	中国	受入	0	0	0(1)	0	0	0(1)
		派遣	0	1	0	0	0	1
ビクトリア大学	オーストラリア	受入	1	0	0	0	0	1
		派遣	2	2	1	0	0	5
祥明大学校	韓国	受入	4	2	4	4	4	18
		派遣	4	2	3	4	4	17
ノーザン・ブリティッシュ・コロ ンビア大学	カナダ	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	0	1	1<1>	1<1>	1<1>	4<3>
電子科技大学	中国	受入	2	2	2	2	3	11
		派遣	0	0	0	0	0	0
エアランゲン・ニュールンベルク・フ リートリッヒ・アレクサンダー大学	ドイツ	受入	0	1	1	1	0	3
		派遣	4	4	3	3	4	18
浙江師範大学	中国	受入	3	3	3	2	3	14
		派遣	0	0	0	0	0	0
浙江大学	中国	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	3	1	1	1	1	7
内蒙古農業大学	中国	受入	1	0	0	0	0	1
		派遣	0	0	0	0	0	0
ボゴール農科大学	インドネシア	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	0	0	0	0	0	0
寧波大学	中国	受入	4	4	4	4	4	20
		派遣	0	0	1	0	0	1
国立台湾師範大学	台湾	受入	2	2	4	3	4	15
		派遣	2	2	1<1>	2	2	9<1>
香港大学	中国	受入	0	1	1	0	0	2
		派遣	3	2	3	1	2	11
国立政治大学	台湾	受入	1	1	1	1	1	5
		派遣	1	2	2	1	1	7
パラツキー大学	チェコ	受入	2	1	1	2	1	7
		派遣	2	2	2	2	2	10
モンゴル人文大学	モンゴル	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	0	0	0	0	1	1
ダッカ大学	バングラデシュ	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	0	0	0	0	0	0
モンゴル生命科技大学	モンゴル	受入	2	0	1	0	1	4
		派遣	0	0	0	0	0	0
天安蓮庵大学	韓国	受入	0	0	0	0	3	3
		派遣	0	0	0	0	0	0
ノースダコタ大学	アメリカ	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	2	0	0<1>	0	0	2<1>
オルレアン大学	フランス	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	3	2	3	3	2	13
アジア工科大学	タイ	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	0	0	0	0	0	0
全北大学校	韓国	受入	1	1	2	1	3	8
		派遣	0	0	0	1	0	1
東フィンランド大学	フィンランド	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	0	0	0	0	0	0
慶北大学校	韓国	受入	0	0	0	2	3	5
		派遣	2	1	1	0	1	5
トライン大学	アメリカ	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	1	2	2	2	2	9
アイルランド国立大学ダブリン校	アイルランド	受入	0	0	0	0	0	0
		派遣	0	0	0[1]	0	0	0[2]
王立ブノンペン大学	カンボジア	受入			1	3	2	6
		派遣			0	3	2	5

ヴァインセンス大学	アメリカ	受入 派遣				1 2<1>	0 2	1 4
ポンティフィシアカトリック大学	ペルー	受入 派遣					0 1	0 1
合 計		受入 派遣	25 30	21 27	31(1) 27[1]<3>	28 30<2>	35 31<1>	140(1) 145[1]<6>

注1 斜線は、協定未締結を示す。

注2 平成25年度から、派遣交換留学の希望者は第1希望・第2希望の合計値。

注3 []は、ダブルディグリープログラムによる派遣で外数。

注4 <>は、私費留学による派遣で外数。

注5 ()は、特別研究学生としての受入で外数。

(2) 学生の部局学間交流協定校との受入・派遣実績 (2018年3月現在)

大学間交流協定校名	国名	部局	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	計
国立暨南国際大学 (人文学院)	台湾	国際学部	受入 派遣	1 0	1 0	3 0	2 0	0 0	7 0
東華大学 (環境科学与工程学院)	中国	工学部	受入 派遣	0 0	0 0	0 0	1 0	0 0	1 0
龍華科技大学 (工程学院, 電資学院)	台湾	工学部	受入 派遣	2 0	0 0	1 0	2 0	0 0	5 0
釜慶大学校 (人文社会科学大学)	韓国	国際学部	受入 派遣	1 2	1 0	1 1	3 0	1 1	7 4
イルクーツク国立言語大学 (国際事務局)	ロシア	国際学部	受入 派遣	2 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 0
キングモンクット工科大学トンブリー校 (生物資源工学研究科)	タイ	農学研究科	受入 派遣	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
齊齊哈爾大学 (外語学院)	中国	国際学部	受入 派遣	2 0	2 0	2 0	2 0	2 0	10 0
ダマスカス大学 (人文学部)	シリア	国際学部	受入 派遣	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
セントラル・ランカシャー大学	イギリス	国際学部	受入 派遣	0 0	0 0	1 1	2 1	1 2	4 4
ポンティフィシアカトリック大学 (人文学部・社会科学部)	ペルー	国際学部	受入 派遣	0 1	0 1	0 0	0 0	0 2	0 2
国立台北大学 (人文学院)	台湾	国際学部	受入 派遣	1 1	0 0	0 1	0 0	0 0	1 2
コリマ大学 (政治社会学部)	メキシコ	国際学部	受入 派遣	0 0	0 0	0 1	1 1	0 2	1 4
遼寧科技大学 (機械工程与自動化学院, 電子与信息工程学院, 材料科学与工程学院)	中国	工学部	受入 派遣	0 0	1 0	1 0	0 0	1 0	3 0
ハノイ大学	ベトナム	国際学部	受入 派遣	2 0	2 0	2 2	2 2<1>	2 0	10 4<1>
トリア大学 (第II哲学部)	ドイツ	国際学部	受入 派遣	0 3	2 1	2 3	2 2	0 3	6 12
華東理工大学 (機械与動力工程学院)	中国	工学部	受入 派遣	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
国立暨南国際大学 (教育学院)	台湾	国際学部	受入 派遣		0 0	2 0	1 0	2 0	5 0
ペラデニヤ大学	スリランカ	国際学部	受入 派遣				0 3	0 1	0 4
ガーナ大学	ガーナ	農学部	受入 派遣				0 0	0 0	0 0
ブルサ工科大学	トルコ	農学部	受入 派遣				0 0	0 0	0 0
東フィンランド大学 ※DDPのみ部局間扱い	フィンランド	工学研究科	受入 派遣	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 [1]
ランブンマンクラット大学	インドネシア	農学部	受入 派遣				2 0	0 0	2 0
カンボジア王立農業大学	カンボジア	農学部	受入 派遣				0 0	0 0	0 0
合 計		受入 派遣	11 7	9 2	15 9	20 9<1>	9 9	9 9	64 36<1>

注1 斜線は、協定未締結 (部局間協定から大学間協定への移行を含む) を示す。

注2 空欄は、当該年度の希望者及び実績が無いことを示す。

注3 平成25年度から、派遣交換留学の希望者は第1希望・第2希望の合計値。

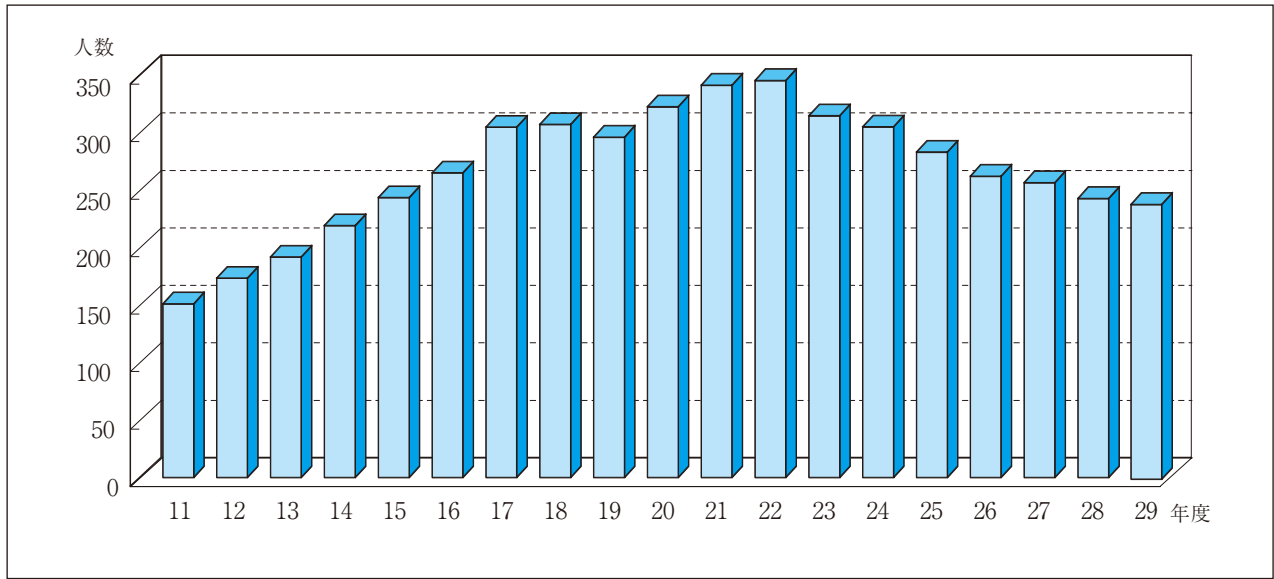
注4 []は、ダブルディグリープログラムによる派遣で外数。

注5 <>は、私費留学による派遣で外数。



(3) 留学生数の推移

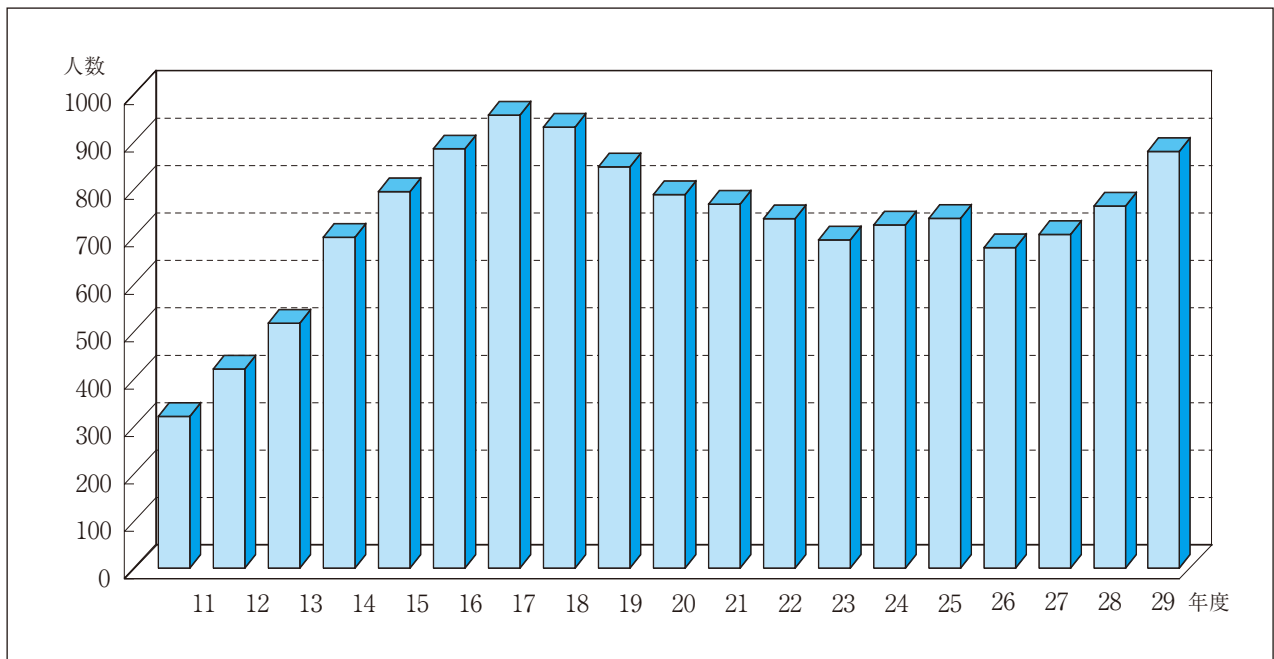
[各年5月1日現在]



年度	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
人数	153	176	193	221	244	264	303	306	295	322	340	345	313	305	284	263	257	244	237

(4) 栃木県内高等教育機関に在籍の外国人留学生数の推移

[各年5月1日現在]



年度	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
人数	318	422	518	697	795	884	956	928	846	788	768	737	693	722	739	677	703	767	877



3 留学生・国際交流センターの発行物

- (1) 『平成 29 年度日本語科目授業案内 (Course Descriptions)』 (2017 年 4 月)
- (2) 『宇都宮大学留学生教育研究論集第 8 号 留学生・国際交流センター年報 2016 年度』 (2017 年 8 月)
- (3) 『2016 年度日本語・日本文化研修留学生研修論文集』 (2017 年 12 月)

宇都宮大学
留学生・国際交流センター年報 2017年度

発行日：平成30（2018）年8月1日

編者：宇都宮大学留学生・国際交流センター
（編集担当：湯本浩之・飯塚明子）

発者：宇都宮大学留学生・国際交流センター
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350
<担当部局>学務部留学生・国際交流課
TEL: 028-649-5099 FAX: 028-649-5115
Email: ryuugak1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
URL: <http://intl.utsunomiya-u.ac.jp/index.html>

レイアウト・印刷：株式会社アートプレス